

地域と歩んだ就実の軌跡

地域貢献報告書 (第8号)

2015 年度

就 実 大 学
就実短期大学

ごあいさつ

学長 片岡洋行

近年、少子高齢化が進展し、我が国の人口が減少局面に入りつつある中、大学を取り巻く環境も変化し、社会や学生のニーズも多様化しています。特に、経済・社会が高度化・グローバル化する中、地域の発展を図る上で、「知の拠点」としての大学による地域貢献に大きな期待が寄せられています。国の政策においても「地域における大学は、地域にとって重要な知的・人的資源であり、地域全体の発展に一層寄与すべき」とされ、大学と連携した地域づくり、地域に根ざした人材養成、地域再生のための人づくりや人材ネットワークづくりなどを掲げて各省庁により様々な地域再生プログラムが展開されています。そのうち、平成27年度からスタートした「地（知）の拠点大学による地方創生推進事業（COC+）」は、大学が地方公共団体や企業等と協働して、学生にとって魅力ある就職先の創出をするとともに、その地域が求める人材を養成するために必要な教育カリキュラムの改革を断行する大学の取組を支援することで、地方創生の中心となる「ひと」の地方への集積を目的としています。本年度から、岡山県立大学を中心として、本学を含む県内8大学と自治体、企業からなる29機関が参画して、5か年計画で「岡山創生学」や「地域創生コモンズ」など様々な事業を展開して行く予定です。

一方、本学においては、これまで「就実公開講座」をはじめ「就実教育実践センター講演会」「薬学部地域連携教育講座」「就実大学経営学部マーケティング実践講座」など、各学部・学科における様々な講演会が地域の市民に公開されています。また、出前講義や自治体や山陽新聞社、いくつかの医療機関との連携協力を進めてきました。さらに、教職員・学生による地域支援、ボランティア活動として、「学生ボランティアグループGBAによる地域子育て支援」「就実子育てアカデミー」「吉備地方文化研究所」の活動は、本年度の大学基準協会の認証評価においても、優れた取り組みとして高く評価されました。このように、大学の教育研究活動によって獲得されてきた知識や技能が、社会貢献という仕組みを通じて地域社会に還元されること、すなわち産学官連携による共同研究や技術移転に繋がったり、住民の生活改善や福祉の向上、豊かな社会を形成する活力に繋がったりすることこそが、大学が果たすべき地域貢献ではないでしょうか。

このような地域貢献が、地域社会に対する信頼となり、本学の魅力に繋がります。10年先も輝き続ける大学となるためには、教育・研究の質を高め、地域の特性を生かして、個性を磨き差別化を図ることが重要です。「産学官地域連携センター」を中心に、学外の変化に目を向け、切り口を変えた様々な活動に取り組んで参りますので、今後とも、皆様のご理解と、ご支援、ご協力のほど、よろしくお願い致します。

平成28年3月吉日

目 次

ごあいさつ.....	1
就実公開講座.....	5
学科・研究所・センター等主催事業.....	35
出前授業.....	59
学外組織との連携・協働.....	67
各種学外委員会の応嘱.....	73
講師の派遣.....	87

就 実 公 開 講 座

前期講座テーマ

「地域創造とマネジメント」

(平成27年6月6日～7月11日)

山田方谷の藩政改革とアベノミクス

経営学部 経営学科 教授 大崎 泰正

2012年末の安倍政権発足以来、デフレ脱却、経済再生をめざして大胆な金融緩和、機動的な財政政策、民間投資を喚起する成長戦略の「三本の矢」を中心としたアベノミクスが展開されている。

アベノミクスの主軸が、異次元緩和に代表される金融政策にある点は明らかだが、その評価をめぐっては大きく見解が分かれている。

そこで幕末期の備中松山藩で、10万両（現在の貨幣価値で200億円とも600億円ともいわれる）の借財を抱え、破綻寸前であった財政を、わずか8年で劇的に立て直した方谷の藩政改革を振り返りながら、その現代に通じる意義を考えてみたい。

まず方谷の事績として財政再建が大きく取り上げられるが、単なる財政再建ではなくその成果を「学問所」「教諭所」の設置、道路、水路など産業基盤の整備、洋式兵制の採用や農兵制の創設、早魃や凶作に備えた44カ所もの「貯倉」の設置といった数々の福祉政策（士民撫育）に活用した点にある。いわば地域経済の活性化が主目的で、その副産物として財政改革が実現したといえる。

方谷の財政改革の考え方は彼が32歳前後に書いた「理財論」に集約されている。

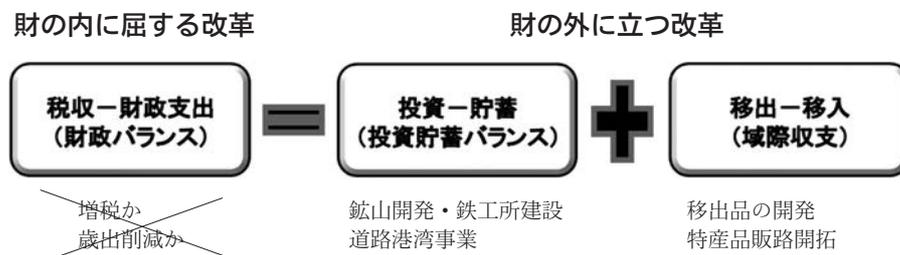
「今日の藩財政の仕組みは、これまでにないほど綿密になっている。あらゆる税制度を設け、役人の給与や諸経費は絞れるだけ絞っている。にも関わらず、財政はますます窮乏しているのはなぜか。徴税制度の緻密さが足りないのか、倹約の仕方が不十分なのか。実はどちらでもないのだ。

『それ善く天下の事を制する者は、事の外に立ちて事の内に屈せず』

国を正しく導く為政者は、大局的見地から判断、行動し、小さな局面での理屈にはこだわらないものだ。今の理財者が失敗を重ねているのは、全て目先の利に囚われて大局観を失っているからだ。」（「理財論 上」大崎意訳）

つまり、財政の窮乏という問題の局面にだけとらわれず、国政の根本を立て直し、領民を豊かにすることによって活力ある社会をつくることこそが改革だというのである。

やや牽強付会かもしれないが、筆者は方谷の「事の外に立つ改革」は、マクロ経済の「貯蓄・投資バランス」の恒等式を想起すれば理解しやすいと考えている。



一地域(国)の財政収支は、次式のように民間の貯蓄投資差額と域際(国際)収支の和に等しいという関係が常に成立している。

財政再建の方策は、ともすれば「増税か、歳出削減か」という、左辺の中だけの議論に陥りがちだが、これは「財政という枠の中」での話に過ぎない。視点を右辺に転ずれば、投資や輸出の増加を図ることが、巡り巡って財政状況の改善につながるという関係がみえてくる。つまり民間経済の

活性化を図ることによって、財政再建は自ずと達成できる。方谷の財政改革はまさに「財政の外側」からの改革であった。

ちなみに「理財論」の「理財」という言葉は、財政という意味のほか、当時はeconomy(経済)の訳語としても使われていた。

方谷は、松山藩の乏しい資源の中から高梁川上流の砂鉄に着目した、鉄山を開掘して製鉄を藩の直営事業とするとともに、鎌、鋏、釘、かすがい、稲こぎ機などの二次製品の生産で付加価値を追求した。直営事業だけでなく、藩内の商工業者に対して煙草、茶、檀紙、和紙、菓子（柚餅子）などの備中ブランドの開発・生産を奨励した。とくに煙草は「備中刻」として名声を得て、町家だけでなく武家屋敷でも刻煙草づくりをするものが多かったという。

つまり方谷は、直営事業を呼び水に人々のやる気と行動を引き出したといえる。

ただ、事業を開始するに当たって10万両の債務の利払い負担があると、事業資金は到底捻出できない。方谷は豪商加島屋をはじめとする債権者を一堂に集めた席で、方谷はそれまでの粉飾を含む藩財政の実態を洗いざらい打ち明け、その上で再建構想の詳細と新規事業からの収益による返済計画を説明し、その前提条件として返済繰延を強く要請した。情理を尽くした要請は商人達の受け入れられるところとなり、10年～50年の元利金返済猶予を取り付けることが出来た。

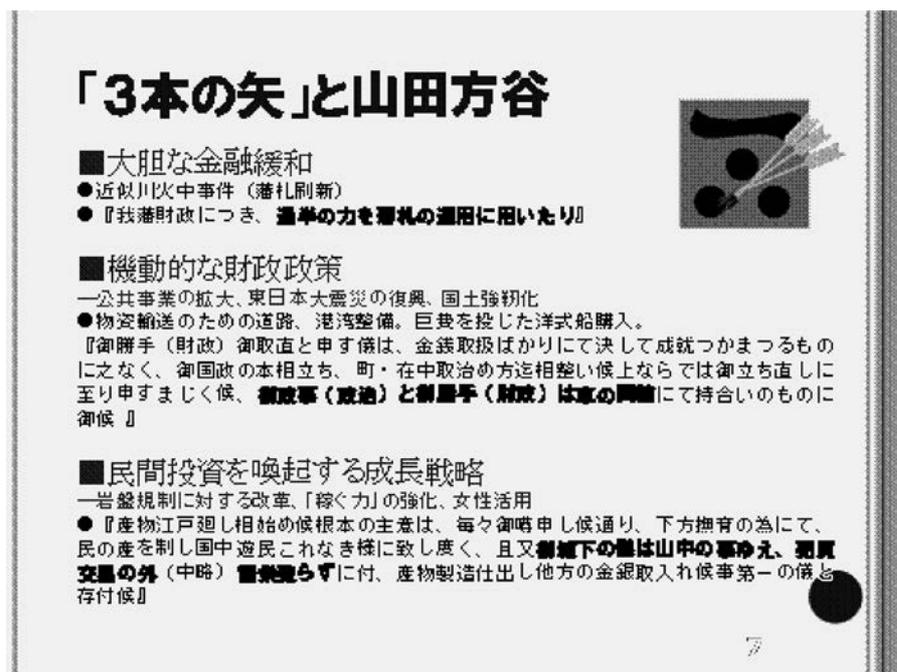
実際には、直営事業の成功により、この数年後には殆ど完済することになった。

方谷が、財政改革に奔走した嘉永年間から安政年間にかけての日本は、ペリーの砲艦外交や安政の大獄などで内政・外交とも極度に不安定化し、安政東南海・南海地震、米価暴落などの災禍が続発するなど最悪の時代であった。

アベノミクスの異次元緩和も、本来は人々の意識の中に染みついたデフレマインドを払拭するための「期待に働きかける」政策であり、「お札をどんどん刷ってばらまけばデフレが止まる」といったものでは必ずしもない。その意味では、少し誤解されている面もある。

しかし、「期待に働きかける」というなら、もっと大きな期待に働きかけてはどうか。

必要なのは日本経済に対する人々のコンフィデンスを変えるようなビジョンないしは成長戦略である。「事の外に立って」大きな流れを変革していかなければならないのは、当時も今も同じである。



「3本の矢」と山田方谷

- 大胆な金融緩和
 - 近似川火中事件（藩札刷新）
 - 『我藩財政につき、通準の力を藩札の運用に用いたり』
- 機動的な財政政策
 - 一公共事業の拡大、東日本大震災の復興、国土強靱化
 - 物資輸送のための道路、港湾整備。巨費を投じた洋式船購入。
 - 『御勝手（財政）御取直と申す儀は、金銭取扱ばかりにて決して成就つかまつるものに之なく、御国政の本相立ち、町・在中取治め方迄相整い候上ならば御立ち直しに至り申すまじく候、御政事（政治）と御勝手（財政）は車の両輪にて持合いのものに御候』
- 民間投資を喚起する成長戦略
 - 一岩盤規制に対する改革、「稼ぐ力」の強化、女性活用
 - 『産物江戸廻し相始め候根本の主意は、毎々御啓申し候通り、下方撫育の爲にて、民の産を制し國中遊民これなき様に致し度く、且又御城下の難は山中の事ゆえ、御真交屋の外（中略）御衆知らず付、産物製造仕出し他方の金銀取入れ候事第一の儀と存付候』

農業の六次産業化の背景と岡山県の動き

経営学部 経営学科 教授 谷口 憲治

1. はじめに

農業の六次産業化は、農業の現状を改善しようとする農業振興策の一つであるため、ここで考察する理論として農村経営論について紹介した。これは、物的・人的地域資源を出来るだけ多く利用する経済活動することにより地域内に多くの富が増加するという地域内付加価値論であり、詳細は拙著『中山間地域農村経営論』（2009年）を参照してもらうことにした。このことを端的に理解してもらうために、岡山産の米を玄米で販売する場合とそれを精米して炊飯して「おにぎり」に加工して販売する場合を比較すると6倍以上になることを示し、地域内で地域住民により加工することの経済効果を述べた。

また、現在の農林水産省統計によると、経営規模が2ha未満では赤字経営となっているが、平成22年に岡山県の農家の93.3%が2ha未満であることから、この付加価値をつける対応は不可避となっている。こうした経営的基盤の上に農業経営を継続させることは、国民のために食料を確保し、農業生産を効率的・安定的に行い、さらに国土保全・環境保全をする全国民生活の安定をさせて行こうとする機能が農業にあり、そうした基本的観点で政策推進する現在の食料・農業・農村基本法による政策実現の一つであることを説明した。

加えて、政策と経営学との関連について、政策は経営の外部要因であり、同じ政策的外部要因の下でどのような経営体がどのような六次産業の実施を可能とするか考察することを示した。

2. 六次産業化とは

現在、話題となっている六次産業化についてその意味と内容について述べた。現在、六次産業化法といわれているものは、2010年12月に公布され、翌年3月に施行された「地域資源を活用した農林漁業者等による新事業の創出等及び地域の農林水産物の利用促進に関する法律」であり、特にその第2章に記されたものとなっている。それについて、農林水産省は、「農林水産物等及び農山漁村に存在する土地・水その他の資源を有効に活用した農林漁業者等による事業の多角化及び高度化」と説明しているが、その考え方基礎となったのは、1996年の今村奈良臣東大農学部教授の論文であった。そこには、「『一次産業』と『二次産業』と『三次産業』を足し算すると『六次産業』になる」といういい方で、農業振興に一次産業だけではなく、二次・三次産業の機能を取り込むことが必要であるということであった。この指摘は、2010年の論文で「足し算では不十分で掛け算で考えていくべき」と修正された。そこでは「農業や農村が衰退してしまえば、 $0 \times 2 \times 3 = 0$ となって六次産業の図式が成り立たなくなる・・・農業・農村に活力があり元気であってこそ六次産業が成り立つ」というものであった。

3. 農業の六次産業化の背景

ここでは、(1) アジア・日本における小規模農業経営の対応、(2) 付加価値の取り込みが低い農業生産物への対応、(3) 産業化（企業化）が遅れた農業経営への対応といった三点について公式統計を用いて、全世界と日本、そこにおける中国地方、岡山県といった地域的な比較による日本、

その中の岡山県が3点の特質を他地域より顕著に示しているという特質を示した。また、歴史的背景が異なる中で農産物の加工による地域振興に取り組んできたことも示した。就実大学の基本理念となっている「去華就実」もそうした動きの一つであったことも述べた。

4. 農業の六次産業化促進に向けた政策支援

現在実施されている政策支援策の内容について、農林水産省「平成27年度六次産業化関連事業と予算概算決定の概算」を基に示した。そこにおいては、農業の六次産業化に向けた生産基盤の確立を目指す戦略・構想の策定、その具体的着手、継続的産業化への支援といった段階を踏まえたものである政策であることを説明した。

5. 農業の六次産業化に向けた全国と岡山県の比較

このことを農林水産省が公表する諸資料に基づいて特徴を整理した。まず、農業の六次産業化に向けた支援組織が各県にサポートセンターとして作られているが、岡山県は、農業関係団体県商工会連合会がその機能を果たしていることが特徴となっていた。農業関連団体が15県と多く、行政の農業関連部署5県、農業や食品関係を中心とした全産業・行政を包括する組織19県とするなかで、岡山県と同じものは他に1県、中小企業関連組織は3県にすぎなかった。また、現在の認定件数は、他県と比較して中国地方、岡山県とも少なく、農産加工を中心に小規模な農家民泊、農家レストランが約6割を占め、少数であるが農産物直売所、観光農園が比較的大規模で、水産物関係組織が多いのが特徴であった。

6. 岡山県における農業の六次産業化の特徴ある取組

岡山県内では新見市周辺での認定数が多く、全体として認定者は株式会社形態が9割近くと多く、独自の商品開発をしており、新たな市場開発を行っており、自社直売所を持ち、ネット販売、地域内安定販売により、付加価値取り込みの経営努力をしていた。具体的取り組み事例として、阿哲商工会の支援を受けている株式会社A農場を紹介した。16年前に東京からのIターンにより県営農地造成地でトマト栽培をはじめ、岡山県エコファーマー第一号となり、六次産業化の第一回認定者となったのをはじめ農業ビジネス関連で全国表彰を受けていることから富裕層にターゲットを絞った独自の製品開発と販売戦略で中国市場への進出を果たしている企業家が岡山県内条件不利地域に存在することを紹介した。

7. まとめ

農業の六次産業化は、グローバル社会が進展する中で主体的な経営対応として必要性が高まっているが、岡山県では個別企業努力と地域農村振興の関連性を高める必要性とその対応をしている島根県の事例からその実現方策として農業者等による地域の製造販売のネットワークづくりと地方自治体の支援方策を示した。

会計基準の国際的統一と日本の対応

経営学部 経営学科 准教授 真田 正次

【概要】

本公開講座では、会計基準の国際的な統一化の中心となっている国際会計基準（IFRS）の概要、各国の対応および日本の対応について学習を行った。

1. はじめに

グローバル化の進展とともに、現在、国際会計基準に対する関心が高まっている。従来、各国は固有の法制度や商習慣を有しており、自らの資本市場の発展度合いに応じた財務諸表を作成することが可能であった。しかしながら、事業の言語である会計が統一されないことによる弊害が意識されるようになるとともに、会計基準を国際的に統一しようとする動きが発生した。本公開講座は、国際会計基準の概要について説明するとともに、各国の対応ならびに日本の対応について解説を行っていくことを目的としている。同時に、今後、地域経済が会計基準の国際的統一という流れに対してどのように対応していくべきなのか考えてみたい。

2. 会計基準の国際的統一

会計とは、企業の活動を、貨幣額を用いて計数的に測定するとともに、その結果を報告書（財務諸表）にまとめて報告する一連のシステムを意味している。そして、企業をめぐる主要な利害関係者である経営者・株主・債権者間の潜在的に存在する相互不信や利害対立関係を調整するとともに、投資者に対して証券投資の意思決定に役立つ情報を提供して彼らを保護することにより、証券市場がその機能を円滑に遂行できるようにしている。

経営者による恣意的な判断や会計処理による利益操作によって財務諸表の信頼性が損なわれると、会計がはたすべき社会インフラとしての重要な役割を十分に果たすことができなくなる。そのため、社会的規範として、会計のルール、すなわち、会計基準が設定されている。

社会的ルールとしての会計基準は、法制度、政治制度、企業の資金調達の方法、会計専門職の発展度合いなどの各国ごとの制度的要因に大きな影響を受けるため、従来、各国はそれぞれの会計システムをもち、独自の会計基準が設定されていた。他方、グローバル化の進展とともに、会計基準を世界的に統一しようとする動きが顕在化した。その中心的な役割を果たしているのが国際会計基準審議会（IASB）であり、IASBが設定するIFRSである。

IFRSの特徴として、一般的には、細かい規則を設定するのではなく原則を重視する原則主義、貸借対照表を中心とした資産・負債アプローチ、経済的実態を重視する実質優先主義、「概念フレームワーク」に基づく演繹的アプローチが指摘されるとともに、より具体的には、公正価値会計、キャッシュ・フロー会計、連結会計の重視などが挙げられる。

3. 各国の対応

（1）欧州におけるIFRSへの対応

2005年以降、EU規制市場内の上場企業に対してIFRSによる連結財務諸表の作成を義務づける

ことが2002年に決定された。ただし、各国への経済的影響を考慮しつつ一部の基準について適用を除外する措置が取られている。同時に、欧州地域に上場する米国や日本などの欧州域外企業に対してもIFRSと同等の認められる会計基準にもとづいて作成された財務諸表の提出を求める方針を発表した。そのため、EU当局は米国、日本、カナダ（のち中国）の会計基準がIFRSと同等であるかを評価することとした（2008年12月、日本基準はIFRSと同等であるとする評価がなされた）。

（2）米国におけるIFRSへの対応

2007年、米国内の資本市場に上場する外国企業を対象にIFRSの適用を容認する一方で、米国企業に対してIFRSの適用を認めるか否か、将来的に判断するとした。2012年、米国SECは米国企業のIFRSの適用に関する最終報告を公表したが、慎重な姿勢を示しており、米国企業は、引き続き米国基準のみの適用が認められている。

（3）日本の対応

従来、日本の会計基準は1952年に設立された金融庁（当時は大蔵省）の諮問機関である企業会計審議会が行っていた。しかしながら、2001年7月に民間の会計基準設定主体である企業会計審議会（ASBJ）が設立され、2015年4月の段階で26の会計基準を公表している。

欧州での同等性評価および米国におけるコンバージェンスの動きを見ながら、我が国においてもIFRSへのコンバージェンスの動きが加速した。2007年8月にはASBJとIASBとの間で会計基準のコンバージェンスを加速するための東京合意が結ばれ、12月には具体的なプロジェクト計画表が発表された。2009年6月、金融庁・企業会計審議会は「日本版ロードマップ」を公表し、2010年3月期から国際的な財務・事業活動を行っている上場企業の連結財務諸表に対してIFRSの任意適用を認める方針を公表するとともに、IFRSの強制適用に関しても2012年を目途に判断するとした。さらに、2013年6月に企業会計審議会が公表した「当面の方針」では、グローバルな基準改善への貢献、高品質な日本基準の維持、およびIFRS任意適用の継続という従来の方針を踏襲するとともに、新たにIFRS任意適用条件の緩和、修正国際基準の提案などが示された。

現在、75社の日本企業がIFRS任意適用を行っている（2015年3月末現在）。

4. おわりに一地域経済がなすべきこととはなにか？

現在、わが国においても、上場企業の連結財務諸表にIFRSを任意適用する企業が増えており、非上場企業にも拡大していく可能性がある。また、IASBは中小企業版IFRSも公表しており、今後、わが国の中小企業に対しても適用されていく可能性がある。地域経済としては、上場・非上場の違い、あるいは中小企業であるか否か、海外との取引先との関係、海外との資本提携、さらには、IFRSへの移行コストと移行に伴うベネフィットを勘案しながら、戦略的に対応していく必要がある。

【語句解説】

国際会計基準審議会（IASB）：会計基準の世界標準化を推進することを目的とする国際機関。前身である国際会計基準委員会（IASC）の業務を引き継ぐかたちで2001年4月に設立された。

国際会計基準（IFRS）：ここでは、国際会計基準委員会（IASC）が設定した会計基準（IAS）および国際会計基準審議会（IASB）が設定した会計基準（IFRS）を総称してIFRSとしている。

未来を創造する会議「フューチャーセッション」

経営学部 経営学科 教授 林 俊 克

【はじめに】

平成27年6月27日(土)、二元論(善/悪、YES/NO)で語れない現代社会の抱える問題に応える新たなリーダーシップ論・マネジメント手法である「フューチャーセッション」を体験学習を通じて学び、実生活に役立てるスキルを身につけていただく事を目的に公開講座を行った。

【フューチャーセッションとは】

フューチャーセッションという言葉は、まだ社会的に定着しておらず、明確な定義もなされていないのが現状である。ウィキペディアでは「フューチャーセンターとは、企業、政府、自治体などの組織が中長期的な課題の解決、オープンイノベーションによる創造を目指し、様々な関係者を幅広く集め、対話を通じて新たなアイデアや問題の解決手段を見つけ出し、相互協力の下で実践するために設けられる施設である。施設は一般に、研修スペースや学習スペース、ミーティングスペースなどで構成される。フューチャーセンターそのものは施設を指し、中で行われるセッションはフューチャーセッションと呼ばれる。」と記されている。ここでは「未来(志向)の会議」「個人個人は自分の思い通りに行動できるように、でも、全体も良い方向に大きく変わるように、合理的にかつ効率的に協調アクションを生むための方法論」と定義することとする。

【リーダーシップのイノベーション】

今まで、会議(ミーティング)と言えば、関係者が集まって相談をし、意思決定をすることであり、民主主義を標榜する集団に於いては、議決機関は常に会議の形を取り、多数で相談の上で決定するものとされてきた。しかしながら昨今は、「総論賛成なれど各論反対」に終始し、「議決できない」「議決しても、反対派(抵抗勢力)が多く、円滑に実行できない」といった状況が多発し、「欲しい結果が得られない」という悲しむべき結果を生むことが多くなっている。

そのような状況を鑑み、「個人個人は自分の思い通りに行動できるように、でも、全体も良い方向に大きく変わるように、合理的にかつ効率的に協調アクションを生む」必要が顕在化してきた。その背景には、「会議で何かを決めても結局みんなは決まっておりにほなほな動かないのだから」といったやや消極的な理由も含まれていると思われるが、今まさに「リーダーシップのイノベーション」が求められる時代に突入したと言っても良いと考える。

リーダーシップのイノベーションとは、従来の「リーダーが命令し、全員がそれに従って動く」といった、リーダーの存在が必要なリーダーシップから、「各自は自律的につかず離れず行動しているだけだが、結果的に協調アクションが生まれ、全体が良い方向に動く」という、所謂リーダーの存在が不要なリーダーシップに転換することを意味している。「はたしてそんな事が可能なのか？」と多くは疑念を抱くであろう。しかしそれは理論的に可能である。弱小魚の「イワシ」をイメージすれば理解が容易である。我々はイワシが一糸乱れぬ美しい群れの動きを知っている。しかしまた同時に、イワシにはリーダーがいまいであろうことも知っている。リーダー不在でも統率の取れた行動が可能であるという事例は、かくも身近に手本として存在している。

では、どうしてイワシはリーダー不在でも統率の取れた行動ができるのか？その秘密はコンピュータシミュレーションによって解明された。「仲間と一緒に動きたい(整列)」「仲間に近づきたい

(結合)」「仲間とぶつかりたくない(分離)」という単純な3つのルールを適切な案配で多数の個体に適用すると、コンピューター上に、イワシの群れの行動が完全に再現されたのである。我々人間も「仲間と一緒に動きたい」「仲間に近づきたい」「仲間とぶつかりたくない」生き物である。イワシに出来て人間に出来ないはずはない。各個人が前述の単純な3つのルールで一斉に行動すれば、かならずやイワシのような統率の取れた行動になるのである。そして、そのような状態を合理的にかつ効率的に作り出す方法論が「フューチャーセッション」である。

【フューチャーセッションで大切なこと】

従来のリーダーシップである指導者たる地位、任務、権力、資質・能力・力量・統率力などに依存することなく、各自は自律的につかず離れず行動しているだけだが、結果的に協調アクションが生まれ、全体が良い方向に動くという、「イワシのリーダーシップ」にシフトしていくためには、大切にしなければならないことが4つある。「多様性」「対話」「未来志向」そしてその結果としての「協調アクション」である。

先行研究によって、「多様性」は効率よい合意形成にはマイナスに働くことが知られている。一方で多様性は会議のアウトプットの質に大きなバラツキを与えることも知られる。ここで、目的を僅かな改善でなくイノベティブな変革におくと、多様性に頼ることが必要となる。

また、「対話」はフューチャーセッションの根幹である。昨今の社会現場では「論駁(ディベート)」がしばしば行われるが、これは議論を戦わせ説得力の高い論旨を採択するもので、勝者と敗者を生む。この時、敗者は素直に勝者の論理に鞍替えしないであろうし、勝者に従うことを楽しめないであろう事は想像に難くない。即ち、ディベートは議決は出来るが、その後、議決を実行する段階で必要な互助意識(共に助け合い協力し合う意識)の醸成に障害となる可能性がある。また、当然ながら二元論に落とし込めない問題に対しては無力である。「勝敗が決まらない」「二元論に落とし込めなくてもよい」という条件を満たす会議方法は今のところ「対話」しかない。

さらに「未来志向」が重要である。未来志向とは、未来に目標をおき、未来から現在を振り返ることで、進むべき道筋とマイルストーンを認識する、「未来は創るものである」という考え方であり、その対極には「未来は現在の延長である」という考え方がある。どちらが真実なのかは知るよしもないが、「未来は創るものである」とすれば行動がぶれず、協調アクションがおこりやすくなる。

そして「協調アクション」を誘発することこそがフューチャーセッションの目的である。前述した単純なイワシの3つのルールを人間社会で適用する為には、大前提として「仲間である」という意識が不可欠となる。それはつまり、全員が「ステークホルダー(利害関係者)」となることを意味し、それなくしては仲間意識は芽生えない。そのため、フューチャーセッションでは、目的をメタ(meta:高次元)認知することで誰もが自分事として関われる問題に変換する。例えば、「もっと売れるスマホを開発するにはどうすればいいのか?」という問題をメタ目的化し、「家族の絆を強める遠隔地コミュニケーションについて考える」という具合である。

【終わりに】

このように、「対話を通じて共感と互助の意識を高める」「さまざまな手法を駆使して効率よく欲しい結果を得る」、そしてその結果としての「協調アクションを誘発する」そのことがフューチャーセッションである。二元論(善/悪、YES/NO)で語れない現代社会の抱える問題に応える新たなリーダーシップ論・マネジメント手法として、「フューチャーセッション」を実生活の中に役立てていただくことを願って止まない。

日本ものづくりの生き残りへ (アップルとソニーの比較から)

経営学部 経営学科 教授 三 枝 省 三

概要：日本のもの作りに関して、技術変化の早いエレクトロニクス産業を考察する。これから、将来、他の産業分野でも起こる可能性を吟味する。その視点をソニーとアップルの対比から考察する。

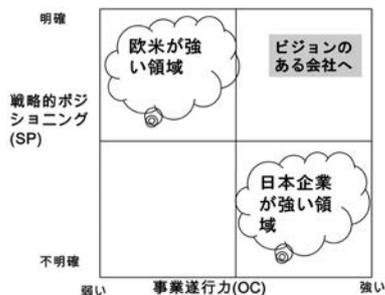
キーワード：日本産業界の現状、外部環境、内部資源、日本の強みと弱み、ソニー対アップル、戦略的視点、組織学習と戦略立案、摺り合わせ型ものづくり、新産業創出、デジタル化

1. 日本産業界の現状：

失われた10年が20年にそして25年に毎年延長されているところがある。危機的状態である。それは、グローバル化とデジタル化が猛スピード駆け回っている中で、戦略の見直しが常に突きつけられていることを示唆している。そして変革が必要であるにもかかわらずそれに追いついていない。また同時に色々な企業再生への試みがなされているが、日本の現状にフィットしていない。これらの構造変化を適切に捕える必要がある。変化は待った無しである。

2. 環境を強く意識した戦略と日本の強み

図表 1. ものづくりの事業戦略



図表 2. ソニーとアップルの比較(参考)

	ソニー(平井一夫)	アップル(ティム・クック)
経営陣	盛田 昭夫 井深 大	営業: スティーブ・ジョブズ 技術: スティーブ・ウォズニアック
経営	小さなAV機器	コンピューター主導
自社技術	ハード技術	ソフトウェア技術
戦略	世界最高の小型化技術	世界最高ソフトウェアでの統合
	AVの多角化	極端に少ない製品数
	統合力で勝負	超大量生産
製品特徴	ビデオゲーム	我儘、デファクトねらい
	データベース(ただ速い)	使い勝手抜群ソフト
		高品質
		小部品点数
		徹底したリサイクル

参考) 1)2)を元に筆者編集

ビジネス環境を中心に考えると外部環境依存性の強い戦略的ポジショニング(SP)と、内部資源に強く依存した事業遂行力(OC)があり、日本は後者に強い。すなわち一旦走り出すと持続性を確保した強い日本となる。しかしそれが同時に「外部環境の変化にも強いのか？」という問いとなる。以下はこれらを念頭に置きながら日本のものでつくりに関して今何を考えなければならないかを考察する。

3. ソニー対アップル (戦略的視点で)

3.1 ソニーとアップルの特徴的な差異 図表 2 に示す様に自社技術のハードとソフトに大きな特徴をもっている。また、ソニーは小型化に絞り、アップルは極めて使い勝手のいい少品種の商品を大量に生産する方式である。

3.2 アップルの強み 以下3点から考察する。

1) ユーザインタフェースが秀逸である。開発投資の大部分はこの周辺技術(主にソフトウェア)である。そして、量の多さもあり、アプリケーションソフトの登録をするプラットフォームとしての機能を持ち、それが実質的な世界標準となっている。

2) ものづくり：小売はアップルストア(直営店500以上@2014、地方には出さない)、短期間の在庫、試作は社内では実施するも量産は自分らでは作らないOEM生産であり、その分工場管理や工場審査をきちっとやっている。結果として粗利率がiPhoneでは約30%である。また、新型iPadなどと部品の共通化を図ることでコスト低減を確実に進めている。

3) 研究開発投資比率においてアップルは2.2% (コア技術特化型) しかなくグーグルやマイクロ

フトと比較しても十分の程度である。

3.3日本とアップルの関係 そのアップルは日本の技術をあらゆる視点で活用しており、ほとんどの主要部品は日本製であり、日本の高い技術力を評価している。それゆえ、逆にメーカーのアップル依存性が高くなりすぎているところもある。

3.4アップルのビジネスモデル：アップルは世間的な視線とは反してハードで利益の90%を挙げている。いわゆる逆替え刃モデル^{3),5)}である。その中には日本の強みであった生産方式・販路方式さえも取り込んでいて、プラットフォームを支えている構図である。

3.5 電気産業界の構造変化とソニー&アップル：戦後の日本産業は繊維から機械の重厚長大へ、その後、軽薄短小の波の中でメカトロニクス製品が代表例としてソニーのウォークマンが出現した。その後1980年代の後半からデジタル化が急激に進進しエレクトロニクス製品へと移行した。そうなると重要部品とか素材の川上産業か顧客と直接触れあう問題解決型しなくなる。と、思っていたところに新しいビジネス形態を提供したのがアップルである。ソニーは小型化の方針を出して半世紀続けてきた素晴らしい活動がここにきてアップルの影の中に入ってしまった感がある。

3.6何を学ぶのか

以上の考察から日本企業は何を学ぶかを箇条書きとする。

- 1) 対象を絞った商品作りへの重点的な投資
- 2) ものとしての製品の魅力度を最大にすること
- 3) 究極的に真似のしにくいデザインと使い勝手
- 4) 販売した後の収益のプラットフォーム型
- 5) ビジネスモデルイノベーションの方法論
- 6) 破壊的な技術登場に関する仕掛け

4. 次世代へ

「日本の強みは大いに残っている」感じている。回転が遅いと言われながらも長期を見据えた経営があり、近代的な終身雇用方式は安定した雇用と労働意欲を作り出しているし、技術の適切な伝承が新たな競争力を作っている。

少子高齢化など日本の弱みを、今まである日本

の強みの再発見し、新産業の創出へつなげることが時代の大きな課題を考えている。具体的には下記のようなキーワードがあると感じている。

- 1) 暮らしの中の軽薄短小、
 - 2) 日本の文化の輸出とグローバル化：和食、和菓子、「かわいい」デザイン、和服
 - 3) 車： 移動⇒楽しむ⇒居住空間の安全移動
 - 4) 社会システム(重厚長大)、医学工学連携
- など様々な視点があり、技術とビジネスモデルイノベーションを同時に進行させ、アナログ的すり合わせ型ものつくりの創発で新しい価値を創造・提供する局面となっている。

まとめ

- 1) 戦略的な位置付け事業遂行力を考える時、日本は後者が得意である。これを残しつつ、戦略性を向上することでより競争力のある日本への変貌が可能と考える。そこには戦略的に他にはまねのできない仕組みが必須でアイデアと努力が必要なところでもある。
- 2) 典型的な事例がアップルであるが、実はアップルもものつくり屋であり、華々しい成功の陰には地道な努力を実践している。ここは日本が強かったはずの箇所を再度認識を新たにすることが必要である。
- 3) また、技術のイノベーションはビジネスモデルのイノベーションを励起させる、すなわち同時に推進することが今後強く求められる

参考文献

- 1) 後藤直樹、森川潤、「アップル帝国の正体」、文藝春秋、2013
- 2) 西田宗千佳、ソニーとアップル 2大ブランドの次なるステージ、朝日新聞出版、(2012)
- 3) 三谷宏治、「ビジネスモデル全史」、ディスカバートゥエンティワン、(2014-9)
- 4) ケイン岩谷ゆかり著、井口耕二訳、「沈みゆく帝国 スティーブ・ジョブズ亡きあと、アップルは偉大な企業でいられるのか」、日経BPマーケティング(2014-6)
- 5) 野中郁次郎、徳岡晃一郎、「ビジネスモデル・イノベーション」、東洋経済新報社、(2012-8)

マーケティングリサーチによる地域創生の試み

経営学部 経営学科 教授 野 本 明 成

[目的]

地域創生のためには、単なる直感や思い込みで行うのではなく、まず地域に影響を与えている要因を分析し、計画をつくる必要があります、そのために情報収集し、分析する必要があります、事例を使用しながら理解を深めます。

[内容]

1. マーケティングの視点からの地域創生の試み

(1) マーケティング・リサーチの必要性

マーケティング・リサーチの目的は、企業や公共組織が顧客や社会環境の変化を敏感にキャッチして常に最適な行動をとることであると言われています(参考文献[1])。

そこで地域創生を試みるにあたり、地域が置かれている状況の把握を行う必要があります、ここではマーケティングの分析手法、すなわち機会・脅威分析、SWOT分析が適用されている。それらの分析手法を利用するためには、そこで使用される情報が必要と考えられます。それらの情報を収集・分析する方法が、マーケティング・リサーチであり、情報の収集には、定量的分析や定性的分析にあった情報が収集されます。

地域が置かれている環境には、人口、自然、経済、社会、技術、文化等の環境が考えられます。たとえば、人口については人口減少、自然については耕作放棄地の増加、経済については地域経済の停滞による雇用環境の悪化、社会については公共交通網の衰退および中心市街地の衰退による買物弱者の出現および待機児童の増加による子育て環境の未充足、文化については人口減少による地域文化の担い手の不足があげられます。

しかし、それらの環境悪化を解決する一つ的手段として、技術環境の進展があげられます。たとえば、ロボット技術の進歩、ITの普及などがあげられます。また、経済については地場産業の技術の集積があり、それらの新しい活用により地域経済の活性化に役立てることも考えられます。自然については豊かな農林水産物の恵みの新しい活用方法により観光の活性化を図ることも考えられます。

(2) 地域創生のためのマーケティング戦略

それらの地域を取り巻く環境についての情報を収集し、それらに基づいて地域創生にとって機会になるのか、脅威になるのかについての分析を行います。また、地域の持つ強みや弱みを分析することにより、今後どのように地域の活性化を行うことが可能かを考察することが可能となります。

たとえば、人口減少や要介護人口の増加、企業の廃業率の増加、耕作放棄地の増加は脅威と考えられますが、一方ITネットワークの普及がなされつつあり、豊かな自然の恵みを新鮮な

まま輸送する技術も発達するなかで、高付加価値な食品を生産し続けることも可能となりつつあり、また、助け合い意識が向上しつつあり、地域創生機運も高まりつつあることは機会ととらえることも考えられます。

そこで、地域創生のマーケティング戦略としては地域を取り巻く諸環境の中で機会となる領域で且つ地域が持つ強みを生かした事業を行うことが地域の創生につなげるのが可能となります。また、脅威となる環境においても地域の持つ強みを生かし脅威を乗り越えて地域創生を行うことも考えられます。

2. 地域創生の事例

(1) 既存の具体的事例

これまでに提示されてきた具体的施策事例としては、以下のような事例が取り上げられてきています。一次産業の製品を単にそのまま販売するのではなく加工して付加価値を付けたり、さらに観光農園等で販売することにより、より高付加価値製品として販売することにより地域の活性化を試みている事例が取り上げられています。また、ロボットを活用して生産性を上げたり、多様な雇用形態を採用したりすることにより雇用環境を整えることも行われています。

(2) 観光と伝統工芸を含めた地場産業再生

地域の眠っている観光資源を掘り起こし活用することにより観光産業の活性化を図ることも考えられています。また、地域の伝統工芸産業や地場産業の各種技術を使用し、新たな製品づくりを行うことにより、埋もれていた技術の活性化を図ることにより新しいブランドづくりに挑戦することも考えられます。

その結果として、伝統工芸産業の体験や観光農園等を組み合わせることにより、地域の持つ様々な資源を活用した滞在型観光を開発することも地域創生の一つの手段となりえます。

また、それらを海外展開することにより新しい市場を開発していくことも十分に可能となります。

3. まとめ

冒頭で述べましたように、マーケティング・リサーチの目的は、企業や公共組織が顧客や社会環境の変化に適応して最適行動をとることであり、そのために先ず諸環境の状況についての情報を収集し、その情報を分析することにより、解決策を見出していくことが可能となります。

マーケティング・リサーチの方法には、目的にしたがって定量的分析や定性的分析があり、それらを活用することにより正確な情報を収集し分析することが望まれます。

「思い込みで施策をつくる」より、「まず調査」を行い、情報を分析するところから地域創生に取り組むことが求められます。

4. 参考文献

- (1) 『マーケティング・リサーチ入門第2版』 太田黒夏生著、日経文庫、1997年。
- (2) 『マーケティング・マネジメント 11版』 コトラー著、ピアソンエデュケーション社。
- (3) 『データ収集・分析入門』 西山敏樹・鈴木亮子・大西幸周著、慶応義塾大学出版会、2013年。

後期講座テーマ

「ずれ」と「ずらし」の文化

(平成27年10月3日～11月21日)

人はいかに発話を理解するか

人文科学部 表現文化学科 准教授 中 崎 崇

1. 語用論

言語学が扱う研究領域の中で「語用論」と呼ばれる分野がある。「語用論」とは、具体的には、実際にことばが使われた状況との関わりにおいてことば(単語や文)の意味を考える研究領域である。その「語用論」が扱う課題の1つとして「人はどのようにして、ことばを使って自分のいいたいことを伝え、相手がそのいいたいことを解釈するのか」といった問題がある。

実際の言語コミュニケーションにおいて、質問に「はい・いいえ」といった直接相手の質問に回答せず、間接的に相手の質問に答える場合が存在する。

- 1) a. 太郎：今晚、一緒に映画を見に行かない？
- b. 花子：明日、日本語講義の試験があるの。
- c. 今晚花子は太郎と一緒に映画を見に行かない。

1) の花子は、1) aの太郎の質問に「行く・行かない」のように直接質問に答えず、映画とは一見関係のない1) b「明日日本語講義の試験がある」という文で質問に答えている。しかし、この場合、聞き手である太郎は、一見関係のない花子の答えを質問の答えとして1) c「今晚花子は太郎と一緒に映画を見に行かない」と解釈する。1) のような会話について何故我々は、一見関係のないような発話を、解釈する(できる)のだろうかと問いかけられた場合、容易に答えることはできないだろう。本講義は、この問いの答えについて、言語哲学者H.P.Grice が提唱した「協調の原則」の考えを紹介しながら、考えていくことを目的にしている。

2. 協調の原則と4つの格率

我々は2)「僕の会社がつぶれた」と言われたときに3)「話し手が愛している会社が表彰された」などと好き勝手に解釈することはできないし、逆に4)「話し手が勤務している会社が倒産した」ことを伝えたい場合に3)のような言い方で4)のように聞き手に解釈してもらうこともできない。こういった事実は、発話を解釈する場合、聞き手に何らかの制約が課せられており、話し手もあるメッセージを伝える場合、聞き手がその制約のもとで解釈できるような表現形式を選ばなければならないということを意味している。つまりは、「会話には、話し手及び聞き手に課せられている制約がある」ということを意味している。話し手はある種の制約を守って発話する必要があり、また聞き手も制約が守られていると考えて発話を解釈する必要があるのである。つまり、会話のやりとりは、話し手と聞き手が協調し、お互い協力して作っていくものであるといえる。Griceは、こういったことから、会話にはそれに則って行われることを期待されている基本原則があると主張し、次のような原則を提案した。

協調の原則 (cooperative principle)

会話のそれぞれの段階で、そのときの会話の目的や方向から求められるように、貢献せよ

* 「貢献せよ」とは、「発話せよ」という意味

さらにGriceは、この【協調の原則】に加えて、会話の参加者が具体的に守らなければならない原則として4つの原則を立てた。この4つの原則は、【4つの格率】（格率とは「従うべき具体的原則のこと」）と呼ばれる。

<ul style="list-style-type: none"> • 量の格率 (Maxim of quantity) 1) 必要なだけの情報を入れて発話せよ 2) 必要以上の情報を入れて発話するな • 関係の格率 (Maxim of relation) 関係のあることを言え • 質の格率 (Maxim of quality) 1) 偽と信じていることを言うな 2) 十分な証拠のないことを言うな 	<ul style="list-style-type: none"> • 様態の格率 (Maxim of manner) 1) 不明瞭な表現を避けよ 2) 曖昧さを避けよ 3) 簡潔に述べよ 4) 順序立てて述べよ
---	--

この【協調の原則】及び【4つの格率】は、会話の参加者、つまり話し手と聞き手両方にとって守るべきものである。つまり話し手であれば、こういった原則や格率に沿って言葉を選ばなければならないし、聞き手であれば、こういった原則や格率を話し手が守っていると考えて、発話を解釈しなければならない。

3. 発話解釈の過程

1) b.の聞き手である太郎が、なぜc.のように解釈できるのか【協調の原則】と【4つの格率】を利用して説明すると次のようになる。通常、我々は話し手も聞き手も効果的に情報のやり取りを行うことを望んでおり、効果的に情報のやり取りを行うためには、【協調の原則】を守ることが必要であると考え。ゆえに、我々は、上記の原則と格率をお互い守っていると仮定する。

この1) b.花子の発話は、表面上、太郎の必要としている情報と関係のない情報を提供している。つまり花子は【関係の格率】に違反している。しかし、太郎の発話は表面上関係のない情報であっても、表面上原則に違反していても、「話し手が効果的に相手に情報伝達するために、【協調の原則】と【4つの格率】を守っているもの」と仮定する。そのように考える太郎は表面上原則は守られていないが、実際には深い次元では原則は守られているはずだ（つまり、表面上言われていることは別の情報を伝えようとしている）と考える。そのように考える太郎は

b. 明日、日本語講義2の試験がある。	(解釈の元となる発話)
+	
d. 試験に合格するには、試験の勉強をする必要がある。 映画に行くと、試験の勉強をする時間がない。	(想定)
c. 花子は今晚太郎と一緒に映画を見に行かない。	(結論)

b.をa.と関係のある情報であると想定し、b.とd.のような想定を結びつけて、花子が言わんとすることを推理してc.という結論を導き出し、b.をa.と関係のある発話として解釈するのである。太郎は、【協調の原則】と【4つの格率】が存在していて、それを花子が守っているものだと考えるからこそ、一見関係のないような発話に対して、それなりの労力をかけ、推論し含意を導きだして解釈しようとするのであり、上記下線部が冒頭の□の答えとなるのである。

はじめて学ぶ『南総里見八犬伝』の世界

人文科学部 表現文化学科 教授 井上啓治

I、八犬伝とは

江戸後期、文化11年（1814）刊行開始より足掛け29年、天保13年（1842）、「第百八十勝回下編・回外剰筆」で終えるまで全191回・全106冊、この三国志・水滸伝を超える大長編小説は、200年経った今、漸うであるが研究者も微増し、「名のみ高く、読まれざる名著」の烙印を脱しつつあるのか。

けれども、江戸期以来の評判・印象は、少しも変わっていないのでは、と思わされることも多い。八犬士の若き頭領・親兵衛について、「少年英雄」・「天才少年」・「子供らしさ」、これらの綯い混ぜられた「明るい天童」のイメージ、まるで歌舞伎に登場する怪童・天童そのままのイメージを持っているのかな、と思わされることも多いのである。

現代の文芸評論家・作家も語る。

どのような場合にも親兵衛は傷つくことなしに、いわば不可侵の無垢を保ち続け、最後にはやすやすと、何の苦もないといったそぶりで敵を倒すのである

犬士としてデビューした親兵衛に貼りつけた像であった。やがて、英雄らしく追放され、流離・放浪の旅に出た親兵衛についても、「逆境の悲哀めいた情緒がほとんどまつわってこない」とか、あるいは、「およそ人間的な挫折感とか心の惑いとか悩みとかと無縁だ」、あるいはまた、「天才は挫折を知らない」などと評されたのであった。八犬伝第三部【京師の話説】の「妖虎退治」に関して

も、親兵衛物語を覆っているのは、一言でいえば、聖者伝説の退屈さである。

とまで言われたのであった。従来のイメージと同じであったろうが、著名な文芸評論家と作家によるこの言説の強さは、その後の親兵衛の像・イメージの固定化に大きく与ったことは言うを俟たない。

だが、そんなはずがない、そんなイメージに映っていることが作者馬琴に分からないはずがない、英雄こそ挫折するはずだ、挫折と成長を繰り返して真の英雄へと成長してゆくはずだ。この推測のもと、テキストを検証したところ、「真の挫折・劇的内省・認識・相対化・回天・成長」を示す劇的事件が、読者に明白に示されているところがあった。これこそ馬琴の真の創作意図・構想を示すものだと確信したのであった。

II、【伏姫伝奇（浪漫）】について

この親兵衛の像に関することは、ほんの一例である。我々は、今ようやく八犬伝研究・八犬伝に関する各論の具体的な展開に入ってゆくのであろう。1980年、停滞の極致にあった八犬伝研究に、高田衛氏は『八犬伝の世界』を公刊して楔を打ち込み、面目を一新され、そして数十年が経っ

た。八犬士・里見侯とともに主要な人物、話説である「伏姫・伏姫女神、伏姫浪漫」についても、高田説にいくらか新しいものを加えられるだろう。

これまで伏姫研究といえば、明治期の北村透谷「処女の純潔を論ず」における、伏姫浪漫こそが八犬伝「全篇の大発端にして、其実は「八犬伝」一部の脳髓なり、伏姫の中に因果あり、伏姫の中に業報あり、伏姫の中に八犬伝あるなり」という説が主水源となり、高田氏も（透谷の、「異類婚姻譚」的な読み方の全面否定を除いて）共感された。しかし、一行一行の読解・テキスト分析を行なってゆくと、透谷のような単純な言はできぬと思われたのである。

【伏姫譚】の中心は、①宿因は、父里見の玉梓に対する「言の過」による玉梓の怨霊で、②玉梓悪霊の憑いた八房犬、姫に祟り異類婚に。③しかし法華経読誦書写の功德で八房も悪怨散じ菩提心を発し、④ゆえに純潔のまま物類相感により懐胎、⑤ために形体無くして生まれ、後に肉の父母より生まれん。⑥その子らは皆関八州に威を輝かして里見家を助ける。⑦姫は産む時に父里見と人間の夫大輔に会い、⑧いずれ大輔等が八子の上を教えてくれるだろう。このようにとらえてみた。

ここを仔細にテキスト読解してみると、地の文の語りと他者の台詞等による伏姫に対する批評ともいえる直接の像表示が抽出できた。それを分析してみたところ、Ⅲ「雄々しさ・烈女像」、Ⅳ「異常性・超俗性」、Ⅴ「美貌」等に五分類できた。特に注目されたのがⅠ「儒教的理想像」と、Ⅱ「仏教的聖女像」であった。

そしてこれらの説話的根幹を支えるのは、中国「槃瓠」説話と、日本昔咄「犬婿入り」説話であった。これに馬琴の八犬伝「伏姫伝奇」を加えた三つの「犬婿入り譚」を話素分解して、馬琴は日・中両国の「犬婿入り譚」を如何様に対象化したといえるのか検証してみた。結果、馬琴の独創たる「物類相感」により伏姫は純潔のまま懐胎するが、もしここで伏姫がⅡ「仏教的聖女像」のみであったなら、すべてを認め、赦し、受け容れられたものを。けれども姫はⅠ「儒教的理想像」でもあったゆえ、絶望の苦悩に陥らねばならない、と考察できた。

また、伏姫譚の三要素と考えられる①因、②因からの脱出、③苦悩とその解消と未来果、これらの創造にあたって馬琴は、①因には姫の理想像なるをもって中国の「槃瓠」という説話を用い、③苦悩の解消には許婚者でありつつ「犬殺し」役獵師、即ち大輔をもって日本の「犬婿入り譚」を用いたのであったといえよう。日中両国の説話の相違点と魅力を余すところなく認識して「伏姫浪漫」を完成させたのだと思われたのである。

中国「槃瓠」にも、日本「犬婿入り」にも許婚者はいない。八犬伝のみ大輔という許婚者がいた。許婚者を奪った者八房と許婚者伏姫をその場で一刀（一丸）のもとに殺す、いわば「姦夫姦婦の成敗」に該当し、武士の義務・権利であった。大輔は秩序侵犯者を殺す役であった。入水自殺では「合意の心中」となってしまう、また、姫も消えてしまい、八玉八犬士が生まれぬ。ゆえに八房殺しを行なうべき権利を有する許婚者大輔しかいなかった。そして倒した両者の仲は清かったゆえ、大輔は責任をとって長い漂泊をするのである。

以上は一部だが、これらのようなことを明らかにすることができたと考えている。

音楽メディアと「ずらし」文化

— 音楽の創造と消費はどう変わったか —

人文科学部 表現文化学科 教授 中西 裕

平成27年10月17日（土）、本学アカデミックホールにおいて、音楽の創造と消費のスタイルの歴史と現在について講演し、CGM(Consumer Generated Media)文化の中の「ずらし」を指摘した。

1. 「従来の」創造と消費のスタイルとは？

昭和歌謡の典型的スタイルとして1966年作品、美空ひばりの「悲しい酒」を取り上げ、作曲家でもありプロデューサーでもある古賀政男が美空を指導する関係であったこと、その古賀はレコード会社「日本コロムビア」専属という立場であったことを指摘。レコード会社主導の流行歌制作システムを紹介して導入とした。

続いて、歴史的・普遍的な観点から音楽の創造と消費を分析するための要素を示した。創造者には作詞者・作曲家・演奏者（歌手・踊り手）があり、それらが職業的な芸能者かどうかという属性がある。享受には、権力者か庶民かといった社会階層の属性と、享受の方法（聴取・歌唱・舞踊）の属性がある。

2. 共同体の中で自然に発生する音楽

歴史を遡って音楽の最も古い形態である民謡、俗謡、神楽などの「共同体の中で自然に発生する音楽」は、古代から現代まで存在し、労働、宴席、祭りなどで演奏されてきた。創作者はほとんど不詳であり、演奏者については送り手と受け手の区別が希薄で享受者自身も「歌い」「踊る」ことが多いという特徴が認められる。

3. 主として権力者の庇護のもとで作られ、消費される音楽

雅楽・田楽・猿楽などは「主として権力者の庇護のもとで作られ、消費される音楽」である。「猿楽」は、次第に白拍子の舞や曲舞、今様などを取り入れて「猿楽能」（「能」「能楽」）と呼ばれる楽劇に発展していく。平曲も主な聞き手は武士階級、公家階級だが、民衆を相手に語る琵琶法師もいた可能性が指摘できる。南北朝時代（14世紀）、明石検校覚一が出て芸能組織「当道座」をつくり、演目の管理を行うようになる。これは現代で言えば著作権保護に当たるコンテンツ保護でもあった。

4. 職業的音楽創作者の登場

中世末から近世にかけて庶民を享受者とする音楽・芸能が興隆し、「阿国歌舞伎」「浄瑠璃節」「義太夫節」「長唄」「豊後節」「清元・常磐津・富本」「新内」といったジャンルが次々と現れた。そして、その作詞・作曲に職業的な創作者が当たるようになる。典型例として天保年間に初演された清元「道行旅路花婿」を取り上げた。これは三升屋二三治（作詞）・清元栄治郎（作曲）という形で創作者の名が明確にフィーチャーされている。プロの演奏者による演奏を聴衆は入場料を支払って視聴するという商業音楽「実演」の消費形態が確立している。しかし当時はメディアがなかったので、市中や地方ではアマチュアの演奏者の音楽も盛んに享受されていた。

5. 音楽の近代化—明治の音楽改革—

明治政府の「音楽取調掛」が西洋の音楽思想の導入し、和洋折衷による近代的音楽教育を創生した。作曲家の地位が向上していったのもこの時期である。



6. 流行歌手の登場

流行歌手が登場するには特定の歌手の歌声を全国に届けるためのメディアが必要であった。レコードの登場によってそれが可能になった。最初期の流行歌手の典型例が「カチューシャの唄」をヒットさせた女優松井須磨子である。このころ、作詞・作曲者は東京音楽学校・東京専門学校等を出たエリート集団であった。演奏者（歌手）に対して創作者が指導的な立場に立つ昭和歌謡のスタイルが出来つつあった。

7. 歌謡曲の成立

作曲家古賀政男の登場によって上述したレコード会社主体によるポピュラー音楽の制作体制が確立する。その後、作詞・作曲者が指導的な立場で音楽制作を行う体制から、シンガーソングライターが活躍する時代、音楽事務所・芸能事務所が歌手のプロモーションの主導権を手にする時代に移り変わっていく。歌謡曲の成立とともに、ポピュラー音楽はレコードやCD、あるいはラジオやテレビで聴取・視聴するという受動的な享受形態が一般化していった。

8. カラオケとディスコブームの意味

ポピュラー音楽が電氣的録音メディアの登場によって受動的聴取の形を作り上げたっばうで、同じ録音メディアを利用して「(カラオケで)自ら歌唱する」「(ディスコで)自ら踊る」という古代からある原初的な音楽への参加的消費形態が復活した。

9. 新しい音楽創造のスタイル

1970年前後に電子楽器「シンセサイザー」が音楽シーンに登場し、商業音楽に電子音楽が導入される時代が訪れた。パソコンの普及とともに電子音楽もデジタル化し、2000年代には歌声を合成することのできるソフトウェア「ボーカロイド」が発売される。アニメの声優の声をサンプリングし、美少女キャラクターのイメージ画像を伴って登場した「初音ミク」が人気を博し、ボーカロイドを使ったボカロイドを趣味で作詞作曲するアマチュアが多数現れた。

彼らは「ニコニコ動画」「Youtube」といった動画投稿サイトを作品の発表の場とした。中でも人気作家は「Pさん」（「P」はプロデューサーの意）と呼ばれ、人気の楽曲は他のアマチュアの手で改作されて二次創作物として発表されるようになった。ボーカロイドの歌唱を自分の歌唱に入れ替えた「歌ってみた」動画、楽曲に自ら振付をつけて踊った「踊ってみた」動画などの派生作品が、原著作者の個別の許諾を取ることなくバイラルに増殖していくのである。これは音楽創造における「ずらし」の文化ということができる。昭和歌謡のスタイルとは全く違う、音楽の「作り手」と「受け手」の境界が雲散霧消する新しい音楽創造空間が現出したのが、現在であると言える。

聴講者は数十名で主として50代から70代の方々であった。アンケートによると「講義が楽しくあっという間の90分だった」「学問の幅の広さを感じた」「新しい時代の創造性にビックリした」「ボカロの登場以降の話は目からウロコだった」などと好評をいただいた。

王朝恋歌のズレとズラシ

人文科学部表現文化学科 教授 岡部由文

講座タイトル<「ずれ」と「ずらし」の文化>の第5回は、「王朝恋歌のズレとズラシ」というテーマで、万葉集、三代集等の和歌集、蜻蛉日記や和泉式部日記といった日記文学、そして伊勢物語、源氏物語などの物語文学のそれぞれにおける恋愛贈答歌を題材に、表現のあり方としての「ズレ」と「ズラシ」の相違を検討し、広くコミュニケーションについて考察した。

素朴で率直といった特色を有する万葉集においては、

大津皇子の石川郎女に贈れる御歌一首

- ・あしひきの山のしづくに妹待つとわが立ち濡れし山のしづくに (巻二・大津皇子)

石川郎女の和へ奉る歌一首

- ・吾を待つと君が濡れけむあしひきの山のしづくに成らましものを (巻二・石川郎女)

とあるように、恋愛感情も真正面から歌われていたのが、時代を追うにつれて、

下出雲寺に人のわざしける日、真静法師の導師にて言へりける言葉を歌によみて、小野小

町がもとに遣はしける

安倍清行朝臣

- ・包めども袖にたまらぬ白玉は人を見ぬ目の涙なりけり (古今集・五五六)

返し

小野小町

- ・おろかなる涙ぞ袖に玉はなす我はせきあへずたぎつ瀬なれば (古今集・五五七)

と、少しずつ意図的な演出を意識した技巧的なものとなっていく、

男の詠みておこせて侍りける

よみ人知らず

- ・あはれとも思はじものを白雪の下に消えつつなほもふるかな (拾遺集・六五三)

返し

中務

- ・ほどもなく消えぬる雪はかひもなし身をつみてこそあはれと思はめ (拾遺集・六五四)

「ズラシ」や「ヒネリ」といった技法を加えること、それこそが洗練されたものとして評価されるようになっていく。無意識で素直に「ズレる」ことは嘲笑・排除の対象となり、意図的に「ズラス」、つまり相手を焦らしたり場合によっては鋭く切り返したりといった駆け引きに長けた表現が魅力的なものとして用いられる。

こうしたありようは、日記文学作品である蜻蛉日記において、藤原兼家から初めての求愛が届いた折の、

見れば、紙なども例のやうにもあらず、いたらぬ所なしと聞きふるしたる手も、あらじとおぼゆるまで悪しかりければいとぞあやしき。ありけることは、

音にのみ聞けば悲しなほととぎすことかたらはむと思ふころあり (兼家)

とばかりぞある。「いかに。返りごとはすべくやある」などさだむるほどに、古代なる人あり

て、「なほ」と、かしこまりて書かすれば、

かたらはむ人なき里にほととぎすかひなかるべき声なふるしそ（道綱母一代作）

に見られのを始めとする、その後のかけひきを満載する応酬を経て、結局は結婚に至るという恋愛贈答歌の作法へと展開するのである。恋愛贈答歌の作法は技能のレベルにとどまるのではなく、教養・品格・人柄等々の総体としての魅力にほかならないのであった。

しかし、源氏物語には、そうした「ズラシ」の技をもってしても伝わらないことがあるということが、源氏と紫の上のすれ違いの場面に描かれている。

昔今の御物語に夜ふけゆく。月いよいよ澄みて、静かにおもしろし。女君、

水閉ぢ石間の水はゆきなやみ空澄む月のかけぞながる（紫上）

外を見出だして、すこしかたぶきたまへるほど、似るものなくうつくしげなり。髪ざし、面様の、恋ひきこゆる人の面影にふとおぼえて、めでたければ、いささか分くる御心もとりかさねつべし。鴛鴦のうち鳴きたるに、

かきつめて昔恋しき雪もよにあはれを添ふる鴛鴦の浮寝か（源氏）

光源氏32歳、紫上24歳の秋から冬にかけて、藤壺薨去の後、源氏は朝顔姫君に異常なほどに執着する。しかも、この執着は紫上のまったく与り知らぬところで行われ、やがて別筋から紫上の聞き知ることとなる。この源氏と朝顔姫君との関係は、源氏との間に一定の距離を保ち続ける朝顔姫君の結婚拒否によって、源氏が断念せざるをえないのであるが、源氏と紫上の関係に変質をもたらさないうちではおこななかった。源氏の多情に苦しみながらも、自負と矜持をもって生きてきた紫上ではあったが、源氏のひた隠しの恋着は紫上に深刻な打撃を与えるのであった。こうした事情を背景にして、冬の庭を見やって歌を詠じる紫上と源氏である。二人の目に映る静謐な景物は同じである。が、流れゆく月と行き悩む水とを対比させながら、内面の苦悩を滲ませる紫上の詠出、そんな紫上を、似るものなく美しいと見ながらも、その背後に藤壺の面影を見ている光源氏の詠なのである。これはズラシなどでは決してない。ズレているのである。それだけに断層は深刻なのである。

こうした古典文学における「ズレ」と「ズラシ」の様相は、技としてのコミュニケーションの有効性と同時にその限界を教えてくれている。この講座では、現代におけるそのありようを相対化して考える手がかりを与えてくれるものであることを指摘した。さらにそこから文学研究を含む人文科学の現代的意義についても及んだ。

小説というズレ

人文科学部 表現文化学科 准教授 小林 敦子

はじめに この講座で考えたいこと

近代の文学の代表である小説と「ズレ」とはどのように関わっているだろうか？ 実は小説にとって「ズレ」は、その本質に関わるものである。小説における「ズレ」とは何かを問うことは、「小説と何か」を問うことにはかならない。そしてそれは、「小説家は自分が書く小説の「終わり」を知っているのか」、「小説家が小説を書いて「生きる」とはどういうことか」といった、小説にまつわる不思議な問いとも不可分のものである。

1 現代における小説の位置づけ

歴史的にみた文学の二大ジャンルは散文と韻文（韻律の有無）ということになるが、現代の文学の二大ジャンルは、小説と詩ということになろう。小説と詩を分かつのは、韻律ではなく、基本的には物語の有無である。近代以降、物語、すなわち叙事（出来事を語ること）は、小説が担っている。小説の定義は多様にあれど、この一点は動かしがたい。

2 近代小説の登場

近代小説は、17世紀から18世紀にかけてヨーロッパで成立したとされる。19世紀には小説が詩に代わって事実上文学の王座に即く。（※日本の近代小説は、近世までの日本の物語文学の要素も引き継いでいるが、直系の系譜としては西欧の近代小説となる。）小説は、文学として何が新しかったのか、それまでも叙事文学は存在していたが、小説は何が違ったのであろうか。

3 小説の特徴とされるもの

21世紀現在、「小説は今や定義不能」と言われるが、いくつか共有されている理解はある。それは、・散文の叙事であるということ、・個人というものの存在が非常に大きいということ、・絶えず新しい手法が生み出される実験的な性格を持つということ、である。これはふりかえれば、実は17～18世紀のスタートから、小説の本質は変わっていないとも言えるかも知れない。

4 小説と叙事詩

小説に先立つ代表的な叙事文学としては、叙事詩があり、これは古代～20世紀前半まで、世界的に存在していた。叙事詩は、「詩」とあるように、韻律のある叙事である。17～18世紀は、叙事の中心が、叙事詩から小説に移行する時期であるが、その頃活躍したゲーテは、小説においても叙事詩においても優れた作品を残している。現在と違い、ゲーテの頃には、出来事を書く上で、小説か叙事詩か、という選択肢が自然とあったわけである。では、小説は何を目指し、叙事詩は何を目指すものであったのだろうか？

5 ヘーゲルの「美学講義」

ヒントになるのは、ゲーテと同時代の哲学者・ヘーゲルの「美学講義」の理論である。詩を最高の芸術形態として重視したヘーゲルは、詩の進歩を叙事詩（客観性）→抒情詩（主観性）→劇詩

(客観と主観の統一)として説明する。1) 叙事詩のポイントとなるのは、客観性である。客観性とは、ある出来事の全体を語ることであり、それゆえ詩人は当事者ではない必要がある。また出来事は完結していなければならない。2) これに対し、「民族的全体」から、個我意識(「私」)のめざめを示す抒情詩は主観性がポイントなる。つまり、抒情詩の本質は詩人が現在の「私」の感情を歌うことにあり、詩人は当事者となる。詩人は出来事の全体を把握するのではなく、瞬間にいて、その先のことを知らない。つまり「私」を描くということは、不完全さを孕むこと意味する。その上でヘーゲルは、3) 劇詩を、叙事詩の客観性と抒情詩の主観性を統一した、最高の形態として位置づける。これは役者(詩人)の各々が、各々の現在の気持ちを歌い、物語が形成されるという構造をとることで、主観的心情と、客観的視点の実現をはかるものである。ヘーゲルの詩の理論はここで完結する。しかしこの理論を踏襲していくと、第4の重要な文学があるのではないだろうか？

ヘーゲルの美学はその国家観と深い関連がある。ヘーゲルは近代的個人の勃興を認めると共に、〈理念〉(国家)による弁証法的統合を強く主張した。個々人とは不完全なもの、差異〈ズレ〉をもつものである。それらの差異を弁証法的に克服していった終局の完全性を目指すのが、ヘーゲル思想の本質である。この主張から、ヘーゲルは理念としての文学である、詩(韻文)を最高のものと見なす。

しかしヘーゲルは同時に、新しい文学の登場に目をとどめている。それがヘーゲルが「近代市民の叙事詩」と呼ぶ小説である。ヘーゲルの視点からは、小説は叙事詩にあった全体性の復活を意味するが、その散文性は不完全性を含む。それゆえ、ヘーゲルは小説は叙事詩を目指さなければならないと考える。

6 散文の叙事・主観的叙事

だが、この散文性こそ、小説の本質と言えよう。散文とは現実で使われる言葉であり、純化されない雑多な言葉である。詩的理想(純化された形態)とすればそこからズレるのが、散文的現実である。そしてこの散文的存在こそ、近代的個人にはほかならない。ゲーテは「小説は主観的な叙事詩である」と言う。つまり小説は、ある種抒情詩の性格も含みこんだ叙事である。「私」が出来事を語るということ、当事者である「私」が出来事を語るということ、さらに言えば、不完全な現実の、〈終わり〉を知らない「私」が出来事を語るということ、言わば「私」が出来事を生きるということが、小説というものである。それは完成形からズレる「私」の、現実の出来事を描くという活動にほかならない。

7 未完成の叙事・小説

実際、19～20世紀における小説の発展は、ヘーゲルが求めた理念への統合ではなく、未完成性の特質を伸ばしていく。バフチンの段階となると、未完成性を新しい力に変え、出来事の「生成」を扱うのが小説だと考えられるようになる。理念的統合からは真逆の方向性であったが、それがあの豊かな小説の成果に結実していく。むしろ未完成性は小説の武器となったのである。

以上のことから、小説についてまとめてみると、1)「私」の叙事である、2)理念からズレる叙事である、3)抒情詩のような瞬間的な「私」ではない／続いていく「私」、4)小説家は、小説の完成形(最終目的)を知らない、書きながら出来事は生まれていく、という特質を考えることができる。それは小説家がよく言うよう、「書きながら生きる」という現象と同じである。小説が人生と重ねられてきた意味はここにあるだろう。完成形からふりかえって世界を見ることは、生ではない。個人の生とはある意味、差異(ズレ)なのである。

文化財講座

(平成27年5月30日)

備前地方の仏像を訪ねて

人文科学部 表現文化学科 教授 土井通弘

実施日：平成27年5月30日

参加者：35名

瀬戸内市の餘慶寺・東寿院、そして備前市の正楽寺を訪問した。当日の案内は、今回の見学会の全体的な狙いを土井が、個々の寺院については就実大学学芸員資格課程を受講する学生有志が担当寺院で解説した。

餘慶寺は天台宗の法灯を今に伝える寺院で、小高い山上に北島八幡社と並んで建っており、往年の神仏習合時代の景観を残す有力寺院である。薬師堂の奥に昭和37年度に国庫補助を受けて設置された収蔵庫に安置されている木造薬師如来坐像（重文）と木造聖観音立像二軀（重文・県指定）を拝観した。薬師如来像は秘仏であるが、今回はお寺のご許可を得て、収蔵庫内に入れていただき、間近かで拝むことができた。本像は10世紀初頭を下らない岡山県を代表する尊像であり、像高は約180cm（周丈六）を超える大像である。9世紀を中心に造立された薬師像の中で、森厳で重厚な表情をした像があり、それらは『七仏薬師経』に基づいて修された薬師悔過会の本尊と考えられるが、餘慶寺の尊像はその典型例と考えられる作例である。餘慶寺の薬師像は一端完成した後に森厳さを強調するために髪際の螺髪一段を足し、より強い表情を造形していることが間近かに観察することができた。また通常では観察できない後頭部の盆の窪の表現まで観察でき、参加者一同の大きな驚きであった。

次に向かったのは弘法寺東寿院である。本寺にはわが国を代表する鎌倉時代前期の仏師快慶作の三尺阿弥陀立像（重文）が安置されている。残念ながら、本像の面相部は後世の補作に変わっているが、その他は当初のままの姿を良く残している。快慶は運慶と並ぶ仏師であり、ボストン美術館所蔵の木造弥勒菩薩立像（文治年間の在銘）をはじめ、約35年の造像活動が判明しているが、中でも三尺阿弥陀立像に見られる快慶様の姿は著名であり、東寿院像はその典型と考えられている。都から遠く離れた岡山の地に快慶作の尊像が伝来することは注目される。

最後に訪れた正楽寺は備前市蕃山に所在する真言宗の寺院である。この度の見学会では平成28年の三十三年目のご開扉の事前調査で新しく見出された平安時代の木造十一面観音立像の拝観であった。秘仏であり通常は拝観を許されないが、今回はご住職のご厚意により拝観可能になった。等身大の優雅な尊像で十二世紀の優品ある。仏像の仕上げ法には表面に漆を塗り金箔を押す漆箔法と、彩色を施す彩色法が一般的であるが、本像は何れでもない素木のままの仕上げである。多くの仏像の中に漆箔も彩色も施さない素木像があり、それらは檀木を用いた檀像と称されている。わが国では檀木（ビャクダンなど強い芳香をもつ木）が採れないことから、代用材を用いて造像することが流行し、代用檀材像として特殊な信仰をもっている。正楽寺像は平安時代後期に造立された代用檀材像として岡山県を代表する作例であり、平成27年度に岡山県の文化財に指定された。

今回の見学会は秘仏を中心に備前地方の仏像を訪ねたが、普段では拝観を許されない尊像を拝む

ことができたのは幸いであった。さらに代用檀材像が備前地方に分布することが明らかになりつつあり、その代表例である正楽寺像を拝観できた見学会であった。

さらに、学生たちが自分で調べた知見に基づいて、自らの言葉で説明していたことは参加者の理解にとっては有益であり、暖かい眼差しで奮闘する学生を見守っていただいた。また学生たちにとってもこの経験が学芸員を目指す上で良い経験になったのではないだろうか。

学科・研究所・センター等主催事業

主 催	人文科学部 表現文化学科		
行 事 名	平成27年度表現文化学会 公開学術講演会『いたるところに詩がある』		
講 師	伊藤比呂美（詩人）		
日 時	平成27年11月21日	場 所	本学R601教室
対 象 者	表現文化学科学生、一般	参加人数	学生170名、一般30名

概要

平成27年11月21日（土）に表現文化学会の総会及学術講演会が本学R601で開催された。これは、毎年開催するもので、第1部総会、第2部学術講演会で構成される。本年度の2部は、現代詩人としてその活動が注目されている伊藤比呂美氏をお招きした。伊藤氏は、1980年代初頭に起きたいわゆる「女性詩ブーム」の皮切りとなった存在である。以後、旺盛な創作活動を展開しているが、その活動は狭い現代詩ジャンルに止まるものではないのは周知のとおりである。『よいおっばい、悪いおっばい』のような育児書をはじめとして、少子高齢化社会では避けて通れない介護問題、女性の生理のこと（『閉経期』）、または長年新聞連載を続けている人生相談等、氏の活動は多岐にわたっている。伊藤氏の本来のフィールドはもちろん文学だが、それを拠点として人生諸事全般にわたる執筆活動を続けているのが多くの読者の支持を得る所以だろう。その証拠として、今回の講演でも30人以上の一般来場者があった。それだけではなく、講演終了後の質疑応答でも、学生や一般来場者からの活発な質問が寄せられた。伊藤氏自身の感想によれば、「これは他大学ではあまり見られなかった」とのことである。アメリカへ帰るフライトの都合もあり、あまり時間的余裕が取れなかったが、それでも、著書にサインを求める参会者に丁寧に応じてくれたのが印象的であった。なお既に多くの受賞歴がある氏だが、今回の講演の直前に「第5回早稲田大学坪内逍遥賞大賞」を受賞され、これは村上春樹、小川洋子氏らが受賞しているが、この受賞が本大会に行きあったのも記念すべきことだろう。



主 催	人文科学部 実践英語学科		
行 事 名	ITCL 第42回日本公演 就実大学公演『ヴェニスの商人』		
招 聘 団 体	International Theatre Company London		
日 時	平成27年5月20日	場 所	本学R601教室
対 象 者	学生、教員、一般	参加人数	450名

概要

2015年度就実大学実践英語学科主催 International Theatre Company Londonによるシェイクスピア演劇 *The Merchant of Venice* (『ヴェニスの商人』) の公演が5月20日(水)午後3時30分よりR館601講義室にて行われました。舞台はイタリアのヴェニス。ポーシャとの結婚を望むバサーニオのために、ヴェニスの商人アントニオは悪名高いユダヤ人の金貸しシャイロックからお金を借ります。アントニオの船は沈没し借金返済ができずシャイロックから訴えられましたが、ポーシャが裁判官に変装して法廷に乗り込み、アントニオは勝訴します。

限られた空間の中、窓付きの衝立を表裏に変えるだけで場面はテンポよく展開し、ドラムの音に合わせた美しい声のハーモニーや、手拍子と軽快なタップで舞うフラメンコなども交えながら、臨場感にあふれる舞台で観客を魅了しました。又、普段、実践英語学科の行事に用いる赤と緑のテーブルクロスを急遽、舞台で使用する事になり、イタリアンカラーの舞台背景の垂れ幕として、ヴェニスを彷彿させる効果的な役割を果たしました。喜劇として分類される本作品ですが、シャイロックにとっては悲劇であり、最終場面でシャイロックが浮かべた悲しげな表情は観客の涙を誘い、一筋縄ではいかないユダヤ人差別を物語っていました。

毎年この企画は本学の学生だけでなく、地域の方々にとっても本場の演劇を享受する絶好の機会となっています。公演後に行ったアンケートでは「無料で質のよい本場の演劇を鑑賞することができ満足しています。とてもありがたい企画です」「開かれた大学という感じがしてとてもよいことだと思います」「このような素晴らしい公演をやる大学は他にはなかなかないのでうらやましい。学生もとても幸せだと思う」「在学生の勉強の一助として非常に有意義であることは言うまでもなく、一般市民に対しても観劇の機会と場を提供下さることに敬意を抱いております」「このような演劇を見るチャンスがなかなかない地方都市にとっては素晴らしい事だと思います。」等の感想を頂きました。



主 催	人文科学部 実践英語学科		
行 事 名	就実大学実践英語学科 TOEICテスト600点突破公開講座		
実 施 者	武部好子（就実大学講師）、西谷工平（就実大学講師）		
日 時	平成27年6月6日、13日、 20日、27日	場 所	本学S102教室
対 象 者	本学学生、一般社会人、 他大学・高校生	参加人数	219名

概要

本年度6月4回の土曜日（6、13、20、27日）に「就実大学実践英語学科TOEICテスト600点突破公開講座」を実施し、好評のうちに無事終了することができた。2008年度に第1回を実施して以来本年度で7回目となり（昨年度は都合により未開催）、回を重ねるごとに関心が高まっている様子が窺える。

今回は岡山市内や県下の高校、公民館に対する案内、また新聞や情報誌などへの案内を行い、多くの方々に申し込みを頂いた。定員100名を予定していたが、社会人・他大学等学生124名、高校生30名、学内生65名（合計219名）の方の申し込みがあり、予想を大きく上回る参加を頂いた。（収容人数の大きいS102講堂を会場にして、全ての申し込み者にご参加いただいた。）リスニングパート（6日、20日）を武部講師が担当、リーディングパート（13日、27日）を西谷講師が担当で実施し、毎回かなり高い出席率で最後まで受講して頂いた。武部講師は本学の指導においては通訳・翻訳関係の授業を担当、西谷講師は検定英語・英文法を担当されており、TOEICテストのそれぞれのパートにおいて適切な講習ができたのではないかとと思われる。

今回の内容としてはTOEICテストの特色であるPart 1～7まで、万遍なく解説ができ、実際のテストの概要と対策が分かりやすく紹介された。公開講座の最後に実施したアンケートにも殆どの方から好評を賜り、「実践的な内容で良く理解できました」、「効率的な勉強方法が分かった」等、感想を頂くことができた。細かい語句や学習方についての質問も寄せられたが、ご意見を参考に来年度以降も更なる内容向上に努め実施してゆく予定である。



主 催	考古学クラブおよび就実大学史学会（総合歴史学科）		
行 事 名	考古学クラブ・就実大学史学会共催講演会		
講 師	黒川正剛（太成学院大学人間学部教授）		
日 時	平成27年10月25日	場 所	就実大学S館512教室
対 象 者	一般、在学生、教職員	参加人数	100名強

概要

本年度大学祭2日目の10月25日（日）に、「魔女狩り — 図像から探る近世ヨーロッパの闇の世界」と題した公開講演会を、考古学クラブと就実大学史学会との共催で開催した。講師は、現在わが国の「魔女狩り」研究の第一人者である黒川正剛（くろかわ・まさたけ）太成学院大学人間学部教授であった。

黒川先生には2009年にも本学にお話に来ていただいたことがあり、今回はそれ以後の先生の精力的なお仕事の成果をふまえた、さらに内容の充実したご講演になった。魔女とは、異端・ユダヤ人・女性・異教女神・インディオ・民衆文化・貧民といった西洋近世の「負」価値の凝集点だったのだという結論部分は、まるでオーケストラのフィナーレを聴いているかのようであった。

聴講者数は、学外からお越しの多数の方々を含めて100人を超え、考古学クラブとしてはおそらく最高記録の達成であった。

最後に、講演終了後に回収したアンケートの一部を紹介しておく。

- ・「魔女の源流が幾つも重なり魔女という形になったと知り、もう少し調べてみたいと興味をもてた。少し時間が足りなく感じた。」
- ・「画像資料を用いた説明で、とても分かりやすかったです。当時の様々な要因が複雑につながって、4～5万人もの人が魔女狩りの犠牲になったことにいちばん驚きました。」
- ・「魔女は『魔女の宅急便』などのイメージで、かわいしいし、魔法を使えていいなと思っていたけれど、「魔女」をめぐる実態を知ってこわかったです。もっと知りたいと思いました。」等々



主 催	教育学部 初等教育学科		
行 事 名	初等教育学会公開講座「教師としてのパワーアップセミナー」		
講 師	諸富祥彦（明治大学文学部教授）		
日 時	平成27年11月28日	場 所	本学R601教室
対 象 者	学生、教職員、一般	参加人数	約280名

概要

本年度の初等教育学会講演会は、『自分を好きになる子を育てる先生』『学校現場で使えるカウンセリング・テクニック』等の著者として知られる諸富祥彦先生（明治大学文学部教授）をお招きし、「教師としてのパワーアップセミナー」と題して、ご講演いただきました。

講演で諸富先生は、まず、フロア参加者に4人組を作るよう指示を出されました。その後、相互に自己紹介をしたり、ダンスを考えたり、といった課題を出されました。課題が進むにつれ、フロアには活気があふれていきました。

その後、子ども・保護者・同僚と「いい関係」をつくるための「リレーション」づくりの大切さや「援助希求」の重要性について、事例も交えながら語っていただきました。援助希求とは、苦しい時に自ら望んで周囲に助けを求めることで、この能力を持つことが教員にとって重要な資質であると考えられています。また、フロアからは多数の質問が寄せられ、諸富先生はその一つ一つに熱心に回答して下さいました。

終了後、参加者からは、「とても楽しかったです。保護者や先生方とどのように付き合っていけばいいか、どのようにクラス経営をしていけばいいかという点において勉強になりました。」「人間関係のプロであってほしいという言葉が強く印象に残っています。自分も未来には自信をもってプロだと言える保育者になりたいと思います。」などの声が寄せられました。

フロアには現職教員として活躍する卒業生の姿も見られ、将来教職を目指す学生や現場の教員にとって、深い学びとなる講演会でした。



主 催	教育心理学科		
行 事 名	親子フラ教室		
講 師	山田美穂（教育学部 講師）		
日 時	平成27年5月8日 ～平成27年9月30日 (計11回)	場 所	T608ダンス教室他
対 象 者	乳幼児とその母親	参加人数	のべ 220 名
概要（本文・写真・図等）			
<p>○開催日：5月8日、5月22日、6月3日、6月24日、7月3日、7月22日、8月27日、8月31日、9月17日、9月24日、9月30日</p> <p>○時間：1～2時間</p> <p>○参加者</p> <ul style="list-style-type: none"> ・対象者：岡山市内在住の乳幼児（0～5歳）と母親（12組が継続参加中） ・教員スタッフ：山田美穂 ・学生スタッフ：教育心理学科学生がボランティア参加（20人が継続参加中） <p>○内容</p> <p>ハワイの伝統的なダンスであるフラを軸にした子育て支援活動として、2011年7月から活動を継続している。子どもたちにとっては、お姉さん（学生）たちと遊んだり踊ったりという、普段とは異なる体験から学ぶ機会、母親にとっては、子どもから少し離れて心身を解放する機会となることを目指している。</p> <p>今年度は、活動時間やスペースの確保の難しさ等により、参加者が少なめではあるものの、中でも新しい参加者や1年生スタッフも加入し、世代や学年を超えた交流が生まれている。また、学生スタッフの楽器演奏とフラのコラボレーション、母親参加者の皆さんによるオリジナル振付やレイ作りへの挑戦、なでしこ祭「ダンス甲子園」および「ハートカフェ」出演に向けての準備など、独創的な活動を展開している。</p> <p>今後も、「子どもたちとお母さんが心身をリラックスさせてほっとする場所であり続けること」を目指し、活動を続けていく予定である。</p>			

主 催	教育心理学科		
行 事 名	親子フラ教室		
講 師	山田美穂（教育学部 講師）		
日 時	平成27年 9月17日 ～平成27年 3月18日 （計14回予定）	場 所	T608ダンス教室他
対 象 者	乳幼児とその母親	参加人数	約200名
概要			
<p>○開催日：（平成27年）9月17日、9月24日、9月30日、10月7日、10月28日、11月6日、11月20日、12月18日、（平成28年）1月8日、1月27日、2月12日、2月24日、3月3日、3月18日</p> <p>○時間：1～2時間</p> <p>○参加者</p> <ul style="list-style-type: none"> ・対象者：岡山市内在住の乳幼児（0～6歳）と母親（11組が継続参加中） ・教員スタッフ：山田美穂 ・学生スタッフ：教育心理学科学生がボランティア参加（21人が継続参加中） <p>○内容</p> <p>ハワイの伝統的なダンスであるフラを軸にした子育て支援活動として、2011年7月から活動を継続している。子どもたちにとっては、お姉さんお兄さん（学生）と遊んだり踊ったりという、普段とは異なる体験から学ぶ機会、母親にとっては、子どもから少し離れて心身を解放したり、他の母親や学生と交流したりする機会となることを目指している。</p> <p>平成27年度後期も、いくつかの試みを通して活動の幅が広がった。まず、毎年恒例となった、なでしこ祭「ダンス甲子園」への出場と、同じくなでしこ祭の「ハートカフェ」（教育心理学科企画）ライブへの出演をし、歓声を浴びながら子どもたちが堂々と踊った。さらに、教育実践研究センター主催の音楽会への参加を認められ、教育学部や幼児教育学科の学生と一緒に音楽を楽しむことができた。これらの体験を通して、親子の参加者が就実大学全体に親しみを感じ、「楽しく学べる場所」という感覚が育っていることがわかってきた。</p> <p>このような活動の展開を可能にしているのは、教育心理学科はもちろんのこと他学科の先生方や職員の方々の理解と協力であり、深く感謝申し上げたい。</p> <p>来年度も、学生スタッフの育成や異年齢の子どもたちに適したプログラム構成などの課題に取り組みつつ、フラの近接領域とのコラボレーションにもチャレンジし、柔軟に、着実に、活動を続けていく予定である。</p>			

主 催	就実大学教育心理学会（共催）		
行 事 名	「みんなの学校」上映会・講演会		
講 師	木村泰子（大阪市立大空小学校初代校長）		
日 時	平成27年11月27日、28日	場 所	S館1階アカデミックホール
対 象 者	一般、本学教職員、学生	参加人数	267名

概要

宇野学区で「みんなの学校」を観る会（宇野学区の保護者）と就実大学教育心理学会が共同で、「みんなの学校」上映会と大阪市立大空小学校元校長木村泰子先生講演会を実施した。実施にあたっては、岡山市をはじめ多くの団体から後援をいただいた。

上映した映画は、大阪市立大空小学校を舞台に「みんながつくる みんなの学校」を合い言葉に、すべての子どもを多方面から見つめ、チーム力で「すべての子どもの学習権を保障する学校をつくる」ことに情熱を注ぐ校長、教員、地域の人々、そして子どもたちの姿を追ったドキュメンタリーである。学校を外に開き、教職員と子どもとともに地域の人々の協力を経て学校運営し、特別な支援を必要とされる子どもも同じ教室でともに学び、育ち合う教育を具現化している内容で、全国の映画館で大きな反響を受けている。

講演会では、上映した映画にも登場した大空小学校初代校長の木村泰子先生をお迎えし、「どこでもできるみんなの学校 大人も子どもも地域も育つ」をテーマにお話いただいた。公共の学校は、すべての子どもの学習を保証することという一貫した信念のもとに、大人も子どももみな一緒に助け合い、学び合うことの大切さについて、実践されてきたエピソードを聞くことができた。

今後の子どもたちの教育や合理的配慮を考えていく上で、本学所在の地域である宇野学区にて

この行事が実施できたことには大きな意義があった。さらに、この会の実行委員に本学学生が参加し、ボランティアも全員本学学生からなっており、地域の人たちと一つの行事を共に作り上げるよい機会となった。



主 催	薬学部 薬学科（薬学部公開講座委員会）		
行 事 名	第1回就実大学薬学部地域連携教育講座 「ハイリスク薬投与患者の薬薬連携の勘所」		
講 師	神村英利（福岡大学教授、福岡大学筑紫病院薬剤部長）		
日 時	平成27年 4月26日	場 所	本学S101教室
対 象 者	薬剤師、卒業生、在学生、 一般	参加人数	121名

概要

今年度最初の研修会は、福岡大学薬学部教授兼福岡大学筑紫病院薬剤部長の神村英利先生より、「ハイリスク薬投与患者の薬薬連携の勘所」という題目で9時30分より3時間の講演が行われた。

冒頭、病院・診療所薬剤師と薬局薬剤師が業務において連携することを「薬薬連携」と定義しているとのこと説明があり、1. 福岡県筑紫地区における薬薬連携の現状、2. ハイリスク薬投与患者における薬学的マネジメント（薬局での調剤頻度が高いハイリスク薬、TDMが必要なハイリスク薬、服薬タイミングに注意が必要なハイリスク薬、中枢神経系に作用するハイリスク薬）、3. ハイリスク薬投与患者における薬薬連携のアウトカムについて、事例を交えながらテンポよくお話された。

具体的には、院外処方せん発行を機に、福岡大学筑紫病院、筑紫薬剤師会、処方せん応需薬局、近隣薬局による連絡会議、合同勉強会や特別講演会を行っており、こうした研修を通じて薬物療法に関する共通認識と顔が見える関係になり、シームレスな薬学的ケアが行えるようになったとのことであった。その結果、薬局での調剤頻度が高い抗糖尿病薬や血液凝固阻止薬等の副作用発症時の対応や予防に関する事前申し合せや、抗不整脈薬、抗てんかん薬、強心配糖体、オフィリンなどのTDMが必要なハイリスク薬の副作用の早期発見法についての情報共有により、薬物血中濃度のデータがなくても中毒の早期発見が可能になった事例を紹介された。また、発生頻度は低いものの、重篤な副作用を惹起するSJSとTENの報告例の多い推定原因医薬品、抗がん剤や生物学的製剤の留意事項についてご教授いただいた。

最後に病院と薬局では検査値や画像などの情報を得る環境が異なることを前提に考え、副作用未然防止や重篤化回避のための処方監査の勘所、初期症状に気づくための観察の着眼点、副作用が疑われる場合の薬学的対応における薬剤師の役割と有効かつ安全な薬物療法の提供システムを構築するために薬薬連携が欠かせない事を改めて力説され、講演後の質疑応答の時間および終了後には参加者から自施設での事例に関する様々な質問が寄せられ、関心が高い講演であったことが窺えた。



主 催	薬学部 薬学科（薬学部公開講座委員会）		
行 事 名	第2回就実大学薬学部地域連携教育講座 「パーキンソン病の発症機構解明に向けて」 「薬学実務実習に関するガイドライン」		
講 師	太田茂（広島大学医歯薬保健学研究院教授・日本薬学会会頭）		
日 時	平成27年5月10日	場 所	本学S102講義室
対 象 者	薬剤師、卒業生、在学生、 一般医療従事者	参加人数	118名

概要

本研修会では、広島大学医歯薬保健学研究院教授・日本薬学会会頭の太田 茂先生より、第1部「パーキンソン病の発症機構解明に向けて」、第2部として「薬学実務実習に関するガイドライン」という題目で、9:30から12:30まで講演が行われた。

第1部の「パーキンソン病の発症機構解明に向けて」では、パーキンソン病発症原因の探索として、これまでの報告から殺虫剤曝露との関連が紹介された。またパーキンソン病患者の脳脊髄液に存在する物質の検索により新規物質を見出し、行動薬理学等で評価する方法や、それらから発展した新規発症物質の分子設計やスクリーニングについても紹介され、最新のパーキンソン病研究や研究手法について大変分かりやすい解説であった。

後半は、「薬学実務実習に関するガイドライン」の解説であった。太田先生はガイドライン案を作成した薬学実務実習に関する連絡会議のメンバーであることから、全国にガイドラインを普及させるべく全国で講演を行っているそうである。本年度から始まった改定モデル・コアカリキュラムでは、現在のモデル・コアカリキュラムと大きく異なり、薬学教育と実務実習カリキュラムが一本化され、また病院実習と薬局実習の連携が打ち出されている。これまで3期に分けて行っていた実習も4期制に移行し、配属調整についてもこれまで以上に難しくなることに加え、今までより大学が積極的に関与しなければならない内容となっていると思われる。

講演終了後の質疑応答では、熱心な聴講者からいくつも質問が寄せられた。実際に現在薬局で実務実習を指導している先生や大学教員からの質問に太田先生が丁寧にお答えになり、会場の聴講者も皆納得した様子であった。今後薬剤師会等や本学においても改定コアカリに対応すべく準備が必要であり、関心が非常に高いことがうかがえた。



主 催	薬学部 薬学科（薬学部公開講座委員会）		
行 事 名	第3回就実大学薬学部地域連携教育講座 「院外処方箋への腎機能検査値印字が医療連携に果たす役割」		
団 体	筒井由佳（社会医療法人近森会 近森病院 薬剤部長）		
日 時	平成27年 6 月28日	場 所	本学S102教室
対 象 者	薬剤師、卒業生、在学生、 一般	参加人数	112名

概要

本研修会では、社会医療法人近森会・近森病院・薬剤部長の筒井由佳先生より、「院外処方箋への腎機能検査値印字が医療連携に果たす役割」という題目で、9:30から12:30まで講演が行われた。

筒井先生の勤務される病院の高知県のお話や教育熱心な院長の話など、和やかなムードの中講演が始まった。

約3時間の講演内容として、病院での薬剤師業務の拡がりや質的变化についてのお話、次いで、本題である院外処方箋への腎機能検査値印字が医療連携に果たす役割のお話という流れで行われた。

具体的には、薬剤師が病棟業務を行うようになった2007年頃他職種からの「薬剤師は専門性が低い」とのコメントをきっかけに、薬剤師でなければできない業務は何かを常に考え、模索しながらの病棟業務を拡大してきた経緯について、物流管理の専門家としてのSPDや調剤補助員としてのテクニカルスタッフの存在が多かったことなどを強調された。

また、全国的に見ても先駆けとなった処方せんへの臨床検査値の記載について、そのデータの記載方法、患者の要望にも対応した運用方法、さらに、印字をきっかけとした疑義照会を行う医師側の変化や処方変更に関わる薬剤師の取組みと症例の報告がなされた。

質疑応答の時間および終了後にも質問が絶えず、テクニカルスタッフの運用や検査値の更新も含めた運用方法についてなど、参加者のニーズにマッチした講演であったことが伺えた。



主 催	薬学部 薬学科（薬学部公開講座委員会）		
行 事 名	第4回就実大学薬学部地域連携教育講座 「行動科学に基づくコミュニケーション」		
講 師	南雲陽子（オフィス・エヌ代表、新潟薬科大学臨床准教授）		
日 時	平成27年8月9日	場 所	本学S102教室
対 象 者	薬剤師、卒業生、在学生、 一般	参加人数	60名

概要

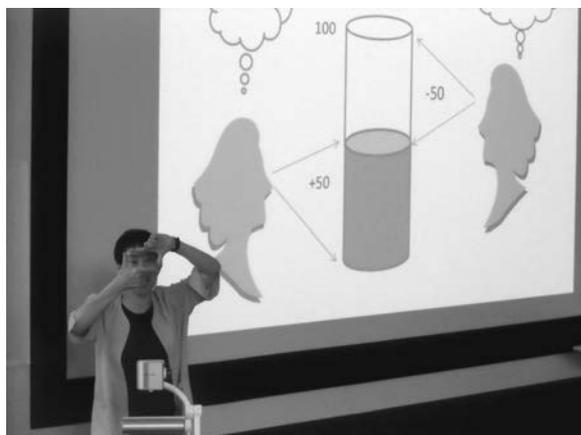
本研修会では、オフィス・エヌ代表、新潟薬科大学臨床准教授の南雲陽子先生より、「行動科学に基づくコミュニケーション」という題目で、9:30から12:30まで講演が行われた。

効果的な服薬支援のために、患者とどのようなコミュニケーションをとっていく必要があるのか実例を交えながら、テンポよくお話しされた。

約3時間の講演内容として、行動科学的服薬支援のお話、次いで、リスニングスキル及びフィードバックスキルのお話という流れで行われた。

具体的には、「服薬に関する問題点を持った患者に対し、望まれる方向へと行動変容を起こさせるためには保険行動のシーソーモデルを理解し、①動機を強める、②負担を軽くする、③支点を動かしたり支えたりする、などを行うことが重要である」、といった内容について実例を挙げながら説明された。また、コミュニケーションスキル・リスニングスキル・フィードバックスキルに関し、それぞれのポイントや効果的なスキルの使用方法についてご教授いただいた。

さらに、話を聞く際の基本的態度のお話の際には、実際に聴講者が二人一組で様々なパターンの会話を行い、講演を聞くだけでなく実際に体験しながらコミュニケーションスキルを理解することができた。質疑応答の時間および終了後にも質問が絶えず、参加者がとても興味を持って受講することのできる講演であったことが伺えた。



主	催	薬学部 薬学科（薬学部公開講座委員会）		
行	事	名	第5回就実大学薬学部地域連携教育講座 「過敏性腸症候群、炎症性腸疾患の病態と薬物療法」	
講	師	半井明日香（岡山大学病院消化器内科）		
日	時	平成27年10月4日	場	所 本学S102教室
対	象	者	参加人数	79名
		薬剤師、卒業生、在学生、一般		

概要

本研修会は、遭遇頻度の高い下部消化管疾患として、第1部 過敏性腸症候群、第2部 潰瘍性大腸炎、クローン病の疫学に分けて、病態・病因、診断と治療を中心にお話された。

最初に、過敏性腸症候群(IBS)の定義についてのご説明があり、本疾患は症状を説明する器質的疾患あるいは生化学的異常が同定されないものを指すものであり、原因不明で検査しても異常が指摘されないものの推定患者は1,200万人であり、他疾患患者（高血圧症患者3,500万人、高脂血症患者2,200万人、糖尿病および予備軍1,870万人）に比べ少なくないとお話であった。続いてIBS診断のフローチャート、IBSの分類、セルフチェック、病因、治療のフローチャートや治療薬の作用機序について説明された。本疾患は下痢・IBS-D、腹痛・IBS-M/U、便秘・IBS-Cによって使用薬剤が異なり、第1段階では食事指導・生活習慣改善が基本、第1段階の精密検査で異常が見つからず、5-HT3拮抗薬や消化管機能改善薬、粘膜上皮機能変容薬等を使用しても無効であった場合、優勢心理のうつや不安を取り除く必要性や、IBS支持所見では運動症状や知覚過敏に役立つ心理療法を用いることがある事、IBSは長期にわたり症状の再燃と寛解を繰り返すことが特徴であり、器質的病変がないが故に患者は苦痛や悩みを周囲の人々に理解してもらい難い現状にあり、周囲の理解を高めるためIBSへの理解を普及させる必要があるとお話であった。

後半は消化管に原因不明の炎症を起こす慢性疾患として知られる炎症性腸疾患（IBD）について、内視鏡画像により正常大腸と潰瘍性大腸炎(UC)、クローン病(CD)の違いを説明された。また、UCでは粘血便、血便が多いのに対しCDでは肛門痛、発熱や体重減少等の症状を示す例が多く、両疾患とも患者数が増え、特にクローン病では若年者の男性で発症しているとお話であった。

IBDの診断においては感染性や薬剤性、血管性や膠原病等、原因が明らかなものもあるが、原因不明な場合もあり、UCの治療で寛解導入療法から寛解維持療法に移行する際、病型と重症度によって治療薬が異なり、軽症ではアミノサリチル酸製剤を使用、重症例では高用量ステロイドやカルシニューリン阻害剤、難治例では抗TNF α 抗体製剤を使用することが多く、他に血球成分除去療法や手術の適応についてご説明頂いた。また、CDでは炎症部位での狭窄や瘻孔が特徴であり、アミノサリチル酸製剤や栄養療法を行った後、さほど重症でなければステロイド、免疫調整剤、抗TNF α 抗体にStep-upする方法、無効であれば抗TNF α 抗体にJump-upする療法があることをご教授頂いた。最後に今後の炎症性疾患治療として、便微生物移植や菌株カクテ等のご紹介があり、講演後の質疑応答時間には参加者から多数の質問が寄せられ、盛会であった。



主 催	経営学部 経営学科		
行 事 名	地域とグローバル化～アジア経済との連携による岡山の発展の可能性		
講 師	経営学部 経営学科		
日 時	平成27年3月7日	場 所	就実大学T館208号室
対 象 者	一般、学生	参加人数	約150名

概要（本文・写真・図等）

3月7日（土）、10時00分～18時00分に就実大学T館208号室において、岡山県中小企業団体青年中央会との共催により地域デザイン学会 中国地域部会第2回研究会を開催した。学会と銘打ってはいるものの、広く一般社会人の参加を募ったフォーラムで、参加者は企業経営者等を中心に約150名であった。

第1部「岡山地域経済の現状とアジア経済との連携の展望」と題して、春名章二岡山大学経済学部教授の「アジアとの経済連携による日本企業経営の発展方向」と題して中国地域の企業を事例に海外展開の実態、課題などが報告され、次いで「岡山地域経済の現状とアジア経済連携の展望」と題したパネルディスカッションが行われた。中野旬一（岡山県中小企業団体青年中央会会長）、仁戸田昌典（オーニット株式会社代表取締役）、河上祐隆（おかやま工房代表取締役）、石井貴朗（カジノン株式会社代表取締役）に春名教授がパネリストとして登壇され、それぞれ自社の海外展開における課題や成果が報告された。座長を務めた大崎教授は「海外進出は自社の強みを明らかにすることや海外進出による国内への多様な波及効果を引き出すことが重要」と総括した。

第2部「アジア諸国からみた岡山企業進出の現状と課題」では、加賀美太記経営学部講師の台湾コンピュータ企業を事例とした企業の自立化戦略について基調講演が行われた後、本学経営学部の留学プログラムの提携校であるベトナム・フエ大学のラン・ファン・ホア準教授、タイのカセサート大学のハルサイ・ナムプラサートチャイ経営管理学部副学部長、インドネシアのユダヤナ大学のワヤンムジャナ経済経営学部副学部長、同ラヒューダ専任講師により、海外企業による各国経済への影響などについて講演が行われた。

総括のパネルディスカッションでは、4名の海外大学からの講演者に内山兼三内山工業社長、晝田眞三ヒルタ工業会長、萩原邦章萩原工業社長を加え、杉山学部長を座長としてグローバル化に対応する岡山企業の現状と直面している課題について論じられ、現地における人材育成や十分なリスク評価・管理体制の確立、長期的視点をもった海外展開の重要性などが指摘された。



主 催	経営学部 経営学科		
行 事 名	ハプスブルク客員教授来岡記念講演～美の共演 -欧州の美と日本の美		
講 師	経営学部 経営学科		
日 時	平成27年 5月23日	場 所	110周年記念ホール
対 象 者	一般、学生	参加人数	約140名

概要（本文・写真・図等）

5月23日(土)、就実大学S館S102教室（110周年記念ホール）にてハプスブルク客員教授来岡記念講演「Think Globally, Act Locally 美の共演 -欧州の美と日本の美」が開催された。この公演会は、オーストリア・ハンガリー帝国皇帝の末裔、ゲーザ・フォン・ハプスブルク大公（客員教授）の来岡に合わせて、「グローバルな視野を持ちつつ日本の文化資産を有効に地域振興に活かすことのできる情操豊かな人材の創出に資すること」を目的に開催したもので、歌舞伎役者、高麗屋（こうらいや）十一代目、市川高麗蔵（いちかわこまぞう）氏をゲストにお迎えし、両先生の公演をいただいたあと、副学長・経営学部長の杉山慎策氏が加わり、「欧州の美と日本の美」「企業活動と美との関わり」などについての座談会を行なった。講演会には当学園の学生・関係者だけでなく、美術ファン、歌舞伎に興味・関心のある一般の方々など約140名が参加、会場フロアから多数の質問や意見が出る活気ある公演会となった。

ハプスブルク教授は、マリーアントワネットと彼女に縁の美術品、ハプスブルク家の政略結婚によるヨーロッパ支配についてユーモアたっぷりに語った。また、高麗蔵氏は、歌舞伎の歴史、役柄や所作の意味、代表的な演目などを女形も含めた声色で楽しく解説した。それに続く座談会では、歌舞伎に対する日本と欧米のお客さまの反応の違いや、本物の芸術に触れることの大切さ等が和やかな雰囲気の中で語られた。

講演会後のアンケートでは、開催目的に合致しているだけでなく「就実大学の社会的認知向上」「地域・文化への貢献」にも大変役立っていると評価された。



主 催	経営学部 経営学科		
行 事 名	就実グローバル・フォーラム2015 ～グローバル化に大学は如何に対応すべきか		
講 師	経営学部 経営学科		
日 時	平成27年10月24日	場 所	110周年記念ホール
対 象 者	大学関係者、一般、学生	参加人数	約140名

概要（本文・写真・図等）

10月24日(土)に、就実大学110周年記念ホールにおいて、本学客員教授であり英国の著名ジャーナリストであるビル・エモット氏及び、文部科学省高等教育局高等教育企画課国際企画室長の松本英登氏、韓国国立公州大学前総長のソウ・マンチョル氏、本学特任教授でありイオン株式会社の相談役林直樹氏をメインスピーカーに迎え、「就実グローバル・フォーラム2015 大学はグローバル化に如何に対応すべきか」と題したフォーラムが開催された。

エモット客員教授は、ラグビーワールドカップで注目を集めた日本代表に外国人選手が多いことを例に挙げ、国籍を問わず優秀な教員や学生を確保し国際的な競争力を高めるべきと指摘した。

松本英登室長は、自身の留学体験の話も交えながら、高等教育におけるグローバル人材の育成に関する文部科学省の取組について説明された。

ソウ・マンチョル教授は語学教育の専門機関を設けるなど国際社会に通用する人材育成に向けた同大の取組を紹介しながら、グローバル化に対応した大学のあり方について具体的な提言をされた。

林相談役は、イオンのグローバルマーチャンダイジングや海外出店の戦略展開と、その中での女性外国人材の活用状況について語られた。

4氏による基調講演のあと、就実大学副学長・経営学部長の杉山慎策をコーディネーターとして、グローバル化が進む中で、大学の果たす役割が大きいことについて様々な角度から論じられた。



主催（学科・研究所等）	幼児教育学科		
行 事 名	学生ボランティアグループGBAによる地域子育て支援の取り組み		
講 師 ・ 招 聘 団 体	学生ボランティアグループGBAに参加する幼児教育学科1・2年生		
日 時	平成27年4月～平成28年3月	場 所	本学体育館アリーナ
対 象 者	就学前の子どもと保護者	参加人数	2,230人(大人994名 子ども1236名)

概要（本文・写真・図等）

幼児教育学科では、学生ボランティアグループGBAと、中四国保育学生研究大会参加学生による地域子育て支援活動『就実やんちゃキッズ』を開催している。10年目を迎えた平成27年度は、昨年度に引き続き『音楽』をテーマとした活動を行った。

『就実やんちゃキッズ』では、学生が地域の就学前の子どもを対象に公演を行うとともに、子どもたちや保護者と遊びを主とした交流を行う。定期的で開催することで地域の子育て支援体制を構築し、地域の子育て世帯が子どもといっしょに安心して過ごすことのできる場を提供すること目的に活動を行った。また、学生たちにとっては、相互に連携を深め、他者と協働することを学ぶ場であり、これまで学んできた保育・幼児教育に関する専門的な知識や技術、コミュニケーション能力、社会貢献への意欲などを磨く機会ともなっている。

「就実やんちゃキッズ～きてみてあそぼうでえ～」の実施概要（平成27年4月～28年1月）

本学体育館アリーナを会場とし、年間8回の活動を行った（4月25日、5月23日、6月27日、9月12日、10月17日、11月28日、12月19日、1月23日）。開場が9時30分、開演は10時で11時30分までの90分間である。プログラムは、前半は学生による公演であり、学生たちは「表現」等の授業で学んだことを活かしながら、パネルシアター・リズム体操・オペレッタを披露し、幕間には手遊びを行った。また、『音楽』のテーマに即して、楽器の演奏を行ったり、童謡を歌ったりなどしながら、音楽表現を随所に取り入れることを意識して活動した。プログラムの後半は、様々な遊びを行うことのできる交流広場を開催した。お絵かきコーナーや、新聞シャワーコーナー、ダンボールハウスコーナー、伝承遊びコーナー、身長・体重測定コーナーなど、幅広い子育て世帯が楽しめるように多くのコーナーを設置した。また、授乳室、おむつ替えスペースなども充実させ、来場者が快適に過ごすことができるように配慮している。毎回、約200～300名前後の子どもと保護者が訪れ、和やかな交流の場を持つことができた。



公演：パネルシアター



交流広場：お絵かきコーナー



交流広場：新聞シャワー

主催（学科・研究所等）	幼児教育学科		
行 事 名	潜在保育士復職支援プロジェクト		
講 師 ・ 招 聘 団 体	幼児教育学科全教員		
日 時	平成27年5月11日～ 平成28年3月31日	場 所	本学・就実こども園・ 岡山コンベンションセンター
対 象 者	岡山県内在住潜在保育士	参加人数	22名

概要（本文・写真・図等）

幼児教育学科では、平成26年に引き続き今年度も岡山県の委託事業として、潜在保育士の復職推進事業に取り組みました。以下の日程で岡山県下の潜在保育士を対象に、保育士の復職に向けて12講座の研修会を実施しました。参加者は22名でした。

続いて、就実こども園での3日間の体験実習と、日本赤十字社の指導員による救命救急（幼児安全法）の実技研修を行いました。

情報交換会には、岡山県・岡山市・倉敷市の保育園・幼稚園課の担当者を招き、求人情報や勤務内容や等、具体的に伺いました。また、昨年の受講生の中から復職された方を招き、体験談を報告していただきました。

日 程	内容（午前10時～12時）	講師	内容（午後13時～15時）	講師
6月27日	①保育原理	澤津	②図画工作	柴川
7月4日	③障がい児保育	田中	④声楽	Z.山田
7月11日	⑤環境	山根・蔵永	⑥器楽	秋山
11月7日	⑦保育行政	笹倉	⑧教育相談	蔵永
11月14日	⑨声楽	Z.山田	⑩特別支援	鎌田
11月21日	⑪言葉	山根	⑫乳児保育	澤津・鎌田
12月10・12・15日 12月19日 2月6日	就実こども園での体験実習（9：00～16：00） 救命救急（10：00～12：00） 情報交換会（山陽学園短期大学との共催）（13：00～15：00） （岡山コンベンションセンター内ママカリフォーラムにて）			



<研修風景>①保育原理



②図画工作



③声楽

主催（学科・研究所等）	生活実践科学科		
行 事 名	就実短期大学 生活科学講演会		
講 師 ・ 招 聘 団 体	浜田博司（大阪大学大学院 生命機能研究科 教授/理化学研究所 多細胞システム形成研究センター センター長）		
日 時	平成27年11月4日	場 所	S102講義室 110周年記念ホール
対 象 者	一般、学生	参加人数	110名

概要（本文・写真・図等）

平成27年11月4日（水）16：30～18：00、「生活科学講演会」が、一般・学生、生活実践科学科1・2年生100名余を対象として、「体が作られる仕組み その原理と医学への応用」と題され開催されました。

講師の浜田博司先生は、理化学研究所で第一線の研究に従事していらっしゃいます。講演では、「体が作られる仕組み」について、発生生物学の領域から、短期大学の学生にも分かりやすく説明してくださいました。特に「体の非対称性が生じる仕組み」について、小さな細胞が分裂を繰り返す中で生じる「生命」の不思議が解き明かされてゆくことに、その領域について知識がなくとも、驚きを覚えずにはいられませんでした。

学生からの質問にも丁寧に応じてくださり、講演を通して、話題の「iPS細胞」などについても、関心を深めることが出来ました。殊にどの学問領域においても大切な「基礎研究の大切さ」について強調された先生の研究へのご姿勢に、感銘を受けたという感想が多く寄せられました。

就実短期大学 生活科学講演会

体が作られる仕組み その原理と医学への応用

大阪大学大学院 生命機能研究科 教授
理化学研究所 多細胞システム形成研究センター センター長
浜田 博司 氏

2015年
日時 11月4日(水) 16:30-18:00
場所 就実短期大学 S102教室
110周年記念ホール 岡山市中区西川原一丁目6番1号
受講料無料 一般の方も受講できます 公共交通機関でお越しください

講師紹介
浜田 博司（はまだ ひろし）氏
昭和50年岡山大学医学部卒業、昭和54年岡山大学大学院・医学研究科博士課程修了、米国NIH/NCI研究員、カナダ・モリアル大学助教授、東京大学医学部助教授等を経て、平成6年より大阪大学教授、平成26年より理化学研究所・多細胞システム形成研究センター・センター長を兼任、マウスを用いて発生生物学（とくに体の非対称性が生じる仕組み）を専攻、産科医学賞などを受賞。

講演概要
私たちの体は受精卵という1個の細胞から始まり、母体の中で細胞分裂と細胞分化を繰り返すことで様々な細胞が出来上がり、出生を迎えます。ではどのような仕組みで、1つの細胞から、たくさんの数と種類の細胞から構成され、複雑な形をもつ体ができるのでしょうか？近年、その仕組みが遺伝子レベルで明らかになりました。ここでは1例として、「体の左右非対称性が生じる仕組み」について紹介します。一方で、体が作られる仕組みを知ることは、医療にも応用されます。例えば、再生医療の進歩には、発生生物学の基礎的な知識・情報が不可欠です。基礎研究の重要性について、説明します。

お問い合わせ 就実短期大学 教務課分室
申し込み TEL：086-271-8121



主	催	教育実践研究センター		
行	事	平成27年度就実教育実践セミナー「ミュージカルとオペラの調べ」		
講	師	壽谷静香（ソプラノ）、岡山フィルハーモニック管弦楽団弦楽四重奏		
日	付	平成27年12月2日（水）	場	所 体育館アリーナ
対	象	者 学生及び地域	参加人数	約400名

概要

壽谷静香（ソプラノ，元劇団四季）と岡山フィルハーモニック管弦楽団の弦楽四重奏をゲストに迎え，平成27年度就実教育実践セミナー「ミュージカルとオペラの調べ」が開催された。プロの圧倒的な歌唱や，美しい弦楽の調べを間近に聴くことができる貴重な機会となったことのみならず，企画に際しては以下の新たな試みも加えられた。まず音楽を「野外ライブさながら」の雰囲気でもリラックスして楽しめる様にとの配慮から，アリーナに椅子を配置せずに実施された。そして，教員と学生がアイデアを出し合い，岡山フィルが演奏する「メヌエット」では，聴衆を巻きこんでの身体表現のコラボを実現させた。さらにフィナーレでは，学生・教員も参加して『オペラ座の怪人』を熱演した。パフォーマンスの成功に加えて，企画を短期間のうちに創り上げるプロセスを学生・教員，プロの演奏家が壁を無くして分かち合い，さらに当日は聴衆も巻き込んで喜びを共有できた。ここに本演奏会の意義，そして音楽の力を再発見した次第である。



主 催	就実教育実践研究センター		
タ イ ト ル	親子ふれあいタイム		
実 施 者	就実子育てアカデミー		
日 付	平成27年5月～平成28年3月 (週2回 火・木)	場 所	就実こども園2F 子育て支援室
対 象 者	0～5歳までの親子	参加人数	のべ合計 約1800名
概要(本文・写真・図等)			
<p>1. 事業目的</p> <ul style="list-style-type: none"> ・乳幼児の心理発達上、大きな役割を果たす異年齢児(0～5歳児)の交流の「場」の構築 ・他の親子の姿を見ることによる自らの子育てスタイルの確立 ・親の子育て不安を相談できる「場」と大学・短期大学・関係協力機関などの人的資源の活用 <p>2. 事業内容</p> <p>0歳から5歳までの乳幼児を持つ親子を定期的に受け入れ、就実こども園2階の子育て支援室で行ってきた。火曜日はサークル活動をとって20組の親子(3クラス)を決め、年間で計画した活動を楽しんだ。木曜日は親子でプログラムのない自由な形で過ごしてきた。また子育て講座を設け身近な知りたい内容の講座を開催した。火曜日と木曜日は園庭開放し、いつでも園庭で遊んで過ごせる。本事業を通して、異年齢児との交流を行う場、親同士の交流の場、親の子育て不安を相談できる場、親の学び場等を構築することができた。</p> <p>3. 活動成果等</p> <p>就実教育実践研究センターが地域のNPO、学校、保育所、町内会、企業、行政と協働して運営している「就実子育てアカデミー」の事業の一環として、本年度も親子ふれあいタイム事業を継続してきた。情報は広く知れ渡り、岡山市はもとより市外からの参加者もあるので、安心・安全の観点から予約制を導入している。</p> <p>就実こども園の施設を利用し、ゆったりと遊べる空間で、親と子どもがふれあう時間を提供できることは、他の親子と知り合う場となり、子育てについて意見交換したり友達を見つけたり親の願いにもかなうものとなり子育てを楽しむ輪が広がると考える。本学の学生も、子どもとその保護者にかかわる機会に恵まれ、直接体験を通して子ども理解を深めている。</p> <p>親子ふれあいタイム最大の特徴は、親の学び講座である。親子が集うことにより、他の親子の子育てスタイルを学ぶことに加え、希望者を対象に、各種の子育て講座を提供した。教員、スタッフ、外部スタッフなどが講師となり、「ベビーマッサージ」「0歳のつどい」「離乳食について」「わらべうた・絵本・あそび」「歯磨き指導」等の講座を継続的に開催した。子育て講座を受講する参観者はとても熱心であり、講座後も質問等で話が盛り上がることも多く、参加者同士のネットワークも構築されているものと考えている。</p> <p>その他、親子ふれあいタイムに関しては、専任保育スタッフを配置したり、スタッフが当日の参加者の様子、相談内容等を相互に報告する振り返りを充実させることにより、支援事業の質を高めていくことに配慮してきた。</p>			

主 催	就実大学・就実短期大学 図書館		
行 事 名	第6回図書館セミナー 「仏像は本当に<仏>の像か―見方と意義―」		
講 師	土井通弘（就実大学人文科学部 教授）		
日 付	平成27年10月31日	場 所	本学図書館5階AVホール
対 象 者	一般	参加人数	92名

概要

10月31日(土)13時から第6回就実大学図書館セミナーを開催しました。今年、「仏像は本当に<仏>の像か―見方と意義―」と題し、92名の参加者を迎え、本学 人文科学部 土井通弘教授による講演会でした。参加者の中には、就実公開講座やセミナーリピーターの方々が参加して下さり、和気あいあいとしたセミナーになりました。

セミナーの前半は、土井先生より、紀元前5世紀頃に起こったと云われる釈迦(ガウタマ・シッダールタ)による「仏教の誕生」に始まり、中央アジア・中国・韓国を経て、日本には、6世紀に「仏教」が伝来しました。その仏教が、日本の中で、古来より信仰されていた神祇信仰と仏教信仰との融合していく様を、いわゆる「神仏習合」を「仏像」の見方を通して講演して下さいました。



興味深い事例として、現在滋賀県の大岡寺が所有している9世紀後半に作られた「薬師如来坐像」が取り上げられました。特に、この仏像の頭部を正面・側面・後ろの3方向にスポットを当てると、正面の螺髪から、側面の刻線、後ろ頭部に至っては全く刻みもない状態であることがわかります。この仏像を、ただ単に仏師の未熟な力量で片づけしてしまうのではなく、「仏」と解釈して良いのかと云う疑問が生じます。この像を「仏」とみなすのか、いやはや、この像は、古来より自然に対する畏敬の念から発生した古神道信仰と仏教信仰との「神仏習合」の産物であるという見方もできるという講演でした。

セミナーの後半は、図書館セミナー初となる学生協働のプレゼン参加でした。博物館課程履修者による「日本芸術」総論と、図書館閲覧室に移動し、「奈良・京都・滋賀・岡山の古寺」の説明と、図書館サポーターによる「図書館ツアー」を実施しました。学生の澁刺した表情と堂々と説明する姿に、微笑みながら質問する参加者の姿は、まさしく地域に根付いたセミナーのコンセプトでもある「図書館で地域をまなぶ」を彷彿させるものでした。次回以降も期待に添えるセミナーを企画したいと思います。



出 前 授 業

所 属 (学部・学科)	人文科学部 実践英語学科		
タ イ ト ル	アメリカ文化と音楽		
講 師	ローレンス ダンテ		
日 付	平成27年 6 月25日	場 所	岡山県立西大寺高等学校
対 象 者	国際情報科 1・2 年生	参加人数	80名
<p>(概 要) 河内先生と関係教員に会い、国際情報科の 1・2 年生80名にアメリカ文化と音楽などについて講義しました。音楽も流し、語彙を教えて、歌詞の意味を学生と一緒に確認しました。</p>			

所 属 (学部・学科)	人文科学部 実践英語学科		
タ イ ト ル	通訳・翻訳の世界へようこそ		
講 師	武部 好子		
日 付	平成27年 9 月15日	場 所	島根県立大社高等学校
対 象 者	高校 2 年生	参加人数	17名
<p>(概 要) 通訳・翻訳の種類や訓練方法を紹介し、DVD視聴覚教材も使用しながら大学で行っている授業の一部を体験して頂いた。生徒達は休憩なしの90分間の授業に集中し熱心に耳を傾けて活発に反応し、沢山の質問を投げかけて下さり「貴重な体験ができてよかったです。」等の感想を頂いた。</p>			

所 属 (学部・学科)	人文科学部 実践英語学科		
タ イ ト ル	通訳の世界へようこそ		
講 師	武部 好子		
日 付	平成27年12月18日	場 所	岡山県立玉野高等学校
対 象 者	高校 2 年生	参加人数	20名
<p>(概 要) 通訳の種類や訓練方法を紹介し、実際の米国テレビ番組のインタビュー音声も使用しながら、大学で行っている授業の一部を体験して頂いた。生徒達は積極的に声を出して練習し、最後には皆の前で数名がプレゼンテーションを円滑に行ってくださった。ありがとうございました。</p>			

所 属 (学部・学科)	教育学部 初等教育学科		
タ イ ト ル	国語の授業をつくってみよう		
講 師	丹生 裕一		
日 付	平成27年12月18日	場 所	岡山県立玉野高等学校
対 象 者	2年生	参加人数	28名
<p>(概 要) 小学校第1学年の国語の教科書教材「おおきなかぶ」を取り扱って、読む力を育てる言語活動を実演して見せた後、続く場面を対象にして子どもたちが意欲的に取り組むような言語活動のアイデアを図解入りで書き、OHCを用いて交流する体験をさせた。</p>			

所 属 (学部・学科)	教育学部 初等教育学科		
タ イ ト ル	理科好きな子どもを育てるためには ―予想を立てて考えよう―		
講 師	福井 広和		
日 付	平成27年7月14日	場 所	岡山県立林野高等学校
対 象 者	全学年	参加人数	25名
<p>(概 要) 講座は各60分間で、前半はスライドを使って就実大学・教育学部・初等教育学科の紹介、保育士・幼稚園・小学校教諭の資格と仕事、教員採用試験についての説明を行った。後半は理科教育を例にとり、どうすれば理科好きな子どもを育てることができるかについて演習形式で紹介した。</p>			

所 属 (学部・学科)	教育学部 初等教育学科		
タ イ ト ル	桃太郎像の変遷		
講 師	渡邊 言美		
日 付	平成27年10月29日	場 所	兵庫県立姫路南高等学校
対 象 者	2年生教員養成課程志望者	参加人数	32名
<p>(概 要) 教育学研究の方法論、特に教育史研究を通して現代の教育課題を捉える視点について講義した。桃太郎の示す人物像はその時代の「理想の子ども」(健康優良児や強い兵士など)を象徴していること、時代によって望ましい子ども像は変化し、教材や絵本なども変化していくことを示した。</p>			

所 属 (学部・学科)	教育学部 初等教育学科		
タ イ ト ル	幼少期の運動の重要性		
講 師	飯田 智行		
日 付	平成27年 7 月21日	場 所	盈進高等学校
対 象 者	1・2年生	参加人数	37名
<p>(概 要) 盈進高等学校の1・2年生に向けて「幼少期の運動の重要性」について出前授業を実施しました。幼少期の運動不足の弊害などを解説しました。また、実際に生徒たちにも簡単に身体を動かしてもらいながら、幼稚園・保育園の運動遊びや小学校の体育の意義について説明を行いました。</p>			

所 属 (学部・学科)	教育学部 教育心理学科		
タ イ ト ル	身体が表す心について		
講 師	桑原 和美		
日 付	平成27年 9 月24日	場 所	創志学園高等学校
対 象 者	1年生	参加人数	33名
<p>(概 要) この講義では、「身体が表す心について」と題して、心の状態がどのように身体の様子に表われ、また身体の状態が心にどのような変化をもたらすのかについて話しました。人の心理と身体の密接な関係や、それを教育にどう生かすかについて興味を持つきっかけになってほしいと思います。</p>			

所 属 (学部・学科)	薬学部 薬学科		
タ イ ト ル	薬物乱用防止教室		
講 師	小野 浩重		
日 付	平成27年12月22日	場 所	岡山市立福南中学校
対 象 者	3年生 (C組)	参加人数	34名
<p>(概 要) 3年生及び保護者を対象に「薬の正しい使い方、薬物乱用および危険ドラッグ」をテーマとした薬物乱用防止教育を実施しました。今年度、新たな試みとして4名の講師が1クラスずつ同様のテーマで講義、その後の質問を受ける形式を採用したことが好評でした。</p>			

所 属 (学部・学科)	経営学部 経営学科		
タ イ ト ル	地域の魅力を伝えるマーケティング		
講 師	加賀美 太記		
日 付	平成27年 9 月 9 日	場 所	岡山県立津山商業高等学校
対 象 者	2 年生	参加人数	約40名
<p>(概 要) 津山商業高等学校の 2 年生を対象とした出前授業を実施しました。2 回講義を行い、それぞれに20名程が参加されました。講義では、「地域」が注目される理由について、事例を紹介しながら説明し、「地域」の魅力を発信する方法をマーケティングの考え方から解説しました。</p>			

所 属 (学部・学科)	経営学部 経営学科		
タ イ ト ル	地域の魅力を伝えるマーケティング		
講 師	加賀美 太記		
日 付	平成27年12月17日	場 所	香川県立丸亀城西高等学校
対 象 者	1 年生	参加人数	約20名
<p>(概 要) 丸亀城西高等学校の 1 年生を対象とした出前授業を実施しました。講義では、ゆるキャラや中四国地域の「県」のブランド戦略を事例にして、「地域」が注目される理由と「地域」の魅力を発信する方法をマーケティングの考え方から解説しました。</p>			

所 属 (学部・学科)	経営学部 経営学科		
タ イ ト ル	なぜこの製品を買ってしまうのか		
講 師	櫻木 理江		
日 付	平成27年 8 月19日	場 所	岡山県立岡山東商業高等学校
対 象 者	2 年生	参加人数	40名
<p>(概 要) プロモーション戦略の話を中心に、その背後にある消費者心理の理論やそれに基づく広告制作、出稿のタイミングの事例を紹介した。普段何気なく見ているテレビやインターネット広告には、各企業の様々な意図が存在していることを理解してもらえれば有り難い。</p>			

所 属 (学部・学科)	経営学部 経営学科		
タ イ ト ル	なぜこの製品を買ってしまうのか		
講 師	櫻木 理江		
日 付	平成27年12月17日	場 所	岡山県立岡山東商業高等学校
対 象 者	1年生	参加人数	25名
<p>(概 要) マーケティング活動の基本となる4Psという概念について、SONYのWalkmanの事例を取り上げて解説した。身近な様々な製品の中でもなぜ自分がその製品を手にとってしまうのか、そのために企業がどんな戦略的な仕掛けをしているのかを少しでも理解してもらえれば有り難い。</p>			

所 属 (学部・学科)	幼児教育学科		
タ イ ト ル	やる気の心理学		
講 師	鎌田 雅史		
日 付	平成27年 7月15日	場 所	岡山県備前市立片上高等学校
対 象 者	全学年	参加人数	約 60名
<p>(概 要) 心理学の立場から、やる気に関する基礎的な3つの理論について、パワーポイントのスライドを用いて紹介した。さらに、紹介した基礎理論をもとにして、やる気を高めたり、維持したりするための目標設定や行動計画に関する工夫について提案した。</p>			

所 属 (学部・学科)	幼児教育学科		
タ イ ト ル	やる気の心理学		
講 師	鎌田 雅史		
日 付	平成28年 3月11日	場 所	岡山龍谷高等学校
対 象 者	2年生	参加人数	44名
<p>(概 要) 教育心理学の立場から、やる気に関する基礎理論について、パワーポイントのスライドを用いて紹介し、やる気を高めたり維持したりするための目標設定や行動計画に関する工夫について提案した。</p>			

所 属 (学部・学科)	生活実践科学科		
タ イ ト ル	与謝野寛(鉄幹)・晶子 岡山の旅		
講 師	加藤 美奈子		
日 付	平成27年 8 月31日	場 所	岡山県立城東高等学校
対 象 者	3 年生	参加人数	39名
<p>(概 要) 与謝野寛(鉄幹)・晶子の岡山への旅について、文学碑を調査ポイントとして概説しました。足跡や旅詠、文学ゆかりの地を、岡山県全図を用いて探すグループワークに、全員が熱心に取り組んでくれました。同校でテーマとされている「文学探究」の一助となることを期待しています。</p>			

学外組織との連携・協働

主 催	大学コンソーシアム岡山		
タ イ ト ル	平成27年度「日ようび子ども大学」		
実 施 者	齋藤 啓太(薬学部 講師)、加藤 久登(薬学部 助手)		
日 付	平成27年6月7日	場 所	岡山県生涯学習センター
対 象 者	幼児～大人	参加人数	約400名

概要（本文・写真・図等）

平成27年6月7日(日)、岡山県生涯学習センターにて、大学コンソーシアム岡山主催日ようび子ども大学に参加した。本イベントは大学コンソーシアム岡山の事業の一環であり、各大学の教育研究活動と市民・大学のつながりを深めることを目的としている。本年度は、薬学部教員2名とボランティア学生12名で参加し、「光で遊ぼう」をテーマにブラックライトを利用した理科実験を行った。発色剤入りの絵の具によるお絵かき体験及びブラックライトによる観察コーナー（鉱石、はがき、栄養ドリンク）の展示を行った。（10時30分～15時）親子連れが約400名来場し、理科実験の楽しさと就実大学をアピールする良い機会となった。



主 催	岡山県生涯学習センター・人と科学の未来館サイピア		
タ イ ト ル	親子で学ぼう 望遠鏡操作入門		
実 施 者	就実大学天文部		
日 付	平成27年 8 月28日	場 所	人と科学の未来館 サイピア
対 象 者	小中学生、保護者	参加人数	21名

概要（本文・写真・図等）

平成27年 8 月28日（金）18:30-20:20に、岡山県生涯学習センター 人と科学の未来館サイピアにて「親子で遊ぼう 望遠鏡操作入門」というイベントが開催された。就実大学天文部の学生たちが指導者として参加した。9組21名の親子連れが参加され、家庭用天体望遠鏡の仕組みや設置方法などについて5グループに分かれて、サイピアの担当者と天文部の学生たちが実技指導を行った。当日は天体観測も予定されていたが、残念ながら曇天で屋外での観望はできなかった。

（当日アンケートの感想）

- ・お店などでも聞けない望遠鏡の操作基礎についてしっかり教えていただいたのでよかった。
- ・外の観測ができなかったのは残念だが、室内の明るい場所で機材とよく向かい合いながら練習できたのはかえってよかった。
- ・自分の機材の使い方（意味も）が分からない部品などがあったが、きちんとわかってよかった。

就実大学天文部は、他にも、サイピアにおける「プラネタリウムナビゲーター養成講座」などに参加してサイピアでのプラネタリウムの上映技術の習得にチャレンジしたり、清心女子高校及び岡山理科大学との合同天体観測会を行うなど、地域での活動に積極的に参加している。



主 催	茶道部		
タ イ ト ル	岡山後楽園 お庭茶会		
実 施 者	茶道部（指導：本学非常勤講師 堀田喜美子）		
日 時	下記の日程	場 所	岡山後楽園
対 象 者	一般来園者	参加人数	各回150～250名

概要（本文・写真・図等）

【平成27年度 実施したお茶会（岡山後楽園）】

1月3日	はつはるの会
3月2日	ひなの会
5月17日	なでしこ茶会
7月12日	たなばたの会
11月21・22日	もみじの会
12月13日	くりすますの会

私たち茶道部は、地域貢献ボランティアとして岡山後楽園で年に6回、季節に合わせたお茶席をさせて頂いています。昨年のたなばたの会では部員全員が浴衣を着ての参加で、お茶会にお越し下さったお客様、特に海外観光客から好評を頂きました。また、待合席では短冊に願い事を書き、七夕ならではの行事を皆様に楽しんで頂くことが出来ました。

今年度で8年目を迎えたお庭茶会も、会を重ねるごとにお越し下さるお客さまも増えました。今後も誠を込めたおもてなしで、お客様に喜んで頂けるようなお庭茶会を目標に部員一同、精進していきたいと思えます。



なでしこ茶会



はつはるの会

主 催	児童文化部		
タ イ ト ル	児童文化部活動記録(2016)		
実 施 者	児童文化部		
日 付	平成27年度	場 所	地域の児童館等
対 象 者	地域の子どもと保護者	参加人数	

概要（本文・写真・図等）

2015年度児童文化部活動記録(2015年4月～2016年3月)			
		場 所	内 容
2015年4月	1日	神根小学校	児童クラブボランティア
	11日	浜川原児童館	児童館でのレクリエーション
	25日	旭川荘	旭川荘子どもまつり補助
5月	5日	岡山ふれあいセンター	子どもフェスティバルの手伝い
	16日	浜川原児童館	児童館でのレクリエーション
	16日	幸町図書館	読み聞かせ活動
	30日	岡山県総合グラウンド	春の子どもまつり（製作・ゲームコーナー）
6月	7日	西ふれあいセンター	工作補助
	20日	浜川原児童館	児童館でのレクリエーション
	20日	幸町図書館	読み聞かせ活動
7月	5日	北ふれあいセンター	北ふれあい祭り補助
	11日	浜川原児童館	児童館でのレクリエーション
	12日	南ふれあいセンター	南ふれあい祭り補助
	17日	富原児童館	夏祭り手伝い
	18日	幸町図書館	読み聞かせ活動
	20日	西大寺ふれあいセンター	西大寺ふれあい祭り補助
	23日	旭川荘	旭川荘夏祭り補助
8月	6日	浜川原児童館	児童館でのレクリエーション
	8日	福祉交流プラザ富原	夏祭り手伝い
	19日	神根小学校	児童クラブでのレクリエーション
	25日	旧三石幼稚園	児童クラブボランティア
	27日	岡山ふれあいセンター	ウォーキング大会補助
9月	26日	岡山国際交流センター	手遊びや歌遊び
	26日	幸町図書館	読み聞かせ活動
	27日	ウェルポート灘崎	子どもたちと工作
	27日	旭川荘	ゆめ祭り補助
10月	17日	旭川荘	ゆめ祭り補助
	18日	北ふれあいセンター	ウォーキング大会補助
11月	1日	岡山ドーム	秋の子どもまつり（製作・ゲームコーナー）
	3日	赤磐市山陽ふれあい公園	製作の手伝いなど
	8日	最上稲荷奥の院	託児
	14日	江尻レストパーク	祭り補助
	15日	西大寺ふれあいセンター	ウォーキング大会補助
	15日	西ふれあいセンター	西ふれあい祭り補助
	22日	幸町図書館	読み聞かせ活動
12月	5日	浜川原児童館	児童館でのレクリエーション
	5日	岡山国際交流センター	公演会補助
	12日	南ふれあいセンター	クリスマス会ボランティア
	13日	北ふれあいセンター	クリスマス会ボランティア
	19日	幸町図書館	クリスマス会ボランティア
	23日	雨谷ワークセンター・せと	クリスマス会ボランティア
1月	9日	西ふれあいセンター	おもちつき手伝い
	10日	北ふれあいセンター	正月イベント手伝い
	24日	幸町図書館	読み聞かせ活動
3月	3日	浜川原児童館	宇野クラブボランティア
	13日	岡山ふれあいセンター	製作の手伝いなど

各種学外委員会の応嘱

所 属	人文科学部 表現文化学科	職 位	教 授	氏 名	川 崎 剛 志
内 容	①国文学研究資料館 国文学文献資料調査員 ②日本山岳修験学会 理事 ③仏教文学会 委員 ④説話文学会 委員				
期 間	①平成13年 4 月 1 日～現在 ②平成23年10月 1 日～平成25年 9 月30日（評議員）、同年10月1日～現在（理事） ③平成24年 4 月 1 日～現在 ④平成27年 4 月 1 日～現在				

所 属	人文科学部 実践英語学科	職 位	教 授	氏 名	田 淵 博 文
内 容	①大学英語教育学会中国・四国支部代議員 ②大学英語教育学会中国・四国支部研究企画委員 ③全国商業高等学校英語スピーチコンテスト岡山県予選会審査員				
期 間	①平成 8 年 4 月 1 日～現在 ②平成15年 4 月 1 日～現在 ③平成14年 4 月 1 日～現在				

所 属	教育学部 初等教育学科	職 位	教 授	氏 名	高 橋 文 博
内 容	①独立行政法人労働者健康福祉機構 岡山労災病院 倫理委員会委員 ②一般社団法人 高等教育国際基準協会理事 ③NPO法人 ヘルスサイエンス地域国際センター理事、NPO法人 口腔健康科学ネット理事 ④岡山大学医療系部局研究倫理委員会専門委員会委員 ⑤一般財団法人 牛窓海洋スポーツ振興会理事				
期 間	①平成22年 4 月～現在 ②平成25年12月～現在 ③平成26年 4 月～現在 ④平成26年 4 月～平成28年 3 月 ⑤平成27年 6 月～現在				

所 属	教育学部 初等教育学科	職 位	准教授	氏 名	楠 博 文
内 容	①兵庫教育大学岡山会 理事				
期 間	①平成25年 4 月 1 日～現在				

所 属	教育学部 初等教育学科	職 位	准教授	氏 名	村 田 恵 子
内 容	①瀬戸内市次世代育成対策推進協議会委員 ②社会福祉法人弘徳学園評議員 ③ダイバーシティ推進実行委員おかやま「親へのエール論文コンクール」 審査委員				
期 間	①平成27年4月1日～平成28年3月31日 ②平成26年7月1日～平成28年6月30日 ③平成1月29日～平成28年3月31日				

所 属	教育学部 初等教育学科	職 位	准教授	氏 名	高 木 亮
内 容	①矢掛町立矢掛小学校学校運営協議会委員 ②矢掛町立矢掛中学校学校運営協議会委員				
期 間	①平成26年4月1日 ～ 平成28年3月31日 ②平成26年4月1日 ～ 平成28年3月31日				

所 属	教育学部 教育心理学科	職 位	教 授	氏 名	北 川 歳 昭
内 容	①岡山市総合政策審議会保健福祉部会委員 ②岡山市障害者政策推進協議会委員 ③岡山心理学会理事				
期 間	①平成27年4月1日～平成28年3月31日 ②平成27年4月1日～平成28年3月31日 ③平成26年12月15日～平成28年12月14日				

所 属	教育学部 教育心理学科	職 位	教 授	氏 名	郷 木 義 子
内 容	①日本学校保健学会代議員 ②中四国学校保健学会理事長 ③岡山県教育庁教育相談員				
期 間	①平成26年4月1日～平成28年3月31日 ②平成27年4月1日～現在 ③平成24年4月1日～現在				

所 属	教育学部 教育心理学科	職 位	教 授	氏 名	石 原 み ち る
内 容	①岡山市学校問題解決サポート事業 専門相談員 ②岡山県教育委員会スクールカウンセラー配置事業 スーパーバイザー				
期 間	①平成24年4月1日～平成27年3月31日 ②平成27年4月1日～平成28年3月31日				

所 属	教育学部 教育心理学科	職 位	准教授	氏 名	森 宏 樹
内 容	①中国・四国学校保健学会 理事				
期 間	①平成26年7月～				

所 属	教育学部 教育心理学科	職 位	准教授	氏 名	岡 田 信 吾
内 容	①岡山県教育委員会平成27年度多様な学びの場「特別支援教室」事業連絡協議会委員 ②岡山県教育員会専門指導員派遣事業に係る専門家チーム員 ③岡山県立鴨方高等学校 教育相談員（及び、いじめ防止委員会外部委員）				
期 間	①平成27年4月1日～平成28年3月31日 ②平成27年4月1日～平成28年3月31日 ③平成27年4月1日～平成28年3月31日				

所 属	薬学部 薬学科	職 位	教 授	氏 名	柴 田 隆 司
内 容	①岡山県薬剤師教育研修委員				
期 間	①平成26年4月1日～平成28年3月31日				

所 属	薬学部 薬学科	職 位	教 授	氏 名	片 岡 洋 行
内 容	①薬学教育協議会分析化学系教科検討委員会委員 ② Analytica Chimica Acta: Editorial Advisory Board member (Elsevier) ③ Analytical Chemistry Letters: Editorial Board (Vinayak-Graphics) ④ Journal of Environmental & Analytical Toxicology: Editorial Board Member (OMICS) ⑤日本分析化学会中国四国支部幹事 ⑥おかやまバイオアクティブ研究会幹事 ⑦ Analytical Methods in Chemistry Editorial Board Member (Hindawi) ⑧ Solid-Phase Extraction Techniques: Editorial Advisory Board (Versita) ⑨Editorial Board Member of Chromatography (Japan) ⑩クロマトグラフィー科学会評議員 ⑪ Permanent Contributing Editors in Trends in Analytical Chemistry (Elsevier) ⑫Editorial Board Member of Journal of Translational Biomarkers & Diagnosis (SciDoc Publishers)				

	⑬Editorial Board Member of Journal of Bioanalytical Techniques (Sciforschen) ⑭日本私立短期大学協会中四国支部評議員 ⑮日本私立大学協会中四国支部評議員 ⑯国際化を進める岡山中央協議会理事 ⑰岡山県薬事審議会委員 ⑱薬学教育評価機構評価実施委員 ⑲日本薬学会中国四国支部代議員 ⑳岡山県薬事審議会委員部会長 ㉑大学コンソーシアム岡山代表者会議 ㉒日本学術振興会科学研究費委員会専門委員
期 間	①平成15年4月～(継続中) ②平成21年1月～(継続中) ③平成23年1月～(継続中) ④平成23年4月～(継続中) ⑤平成23年4月～(継続中) ⑥平成23年4月～(継続中) ⑦平成23年11月～(継続中) ⑧平成24年1月～(継続中) ⑨平成24年4月～(継続中) ⑩平成24年4月～(継続中) ⑪平成24年4月～(継続中) ⑫平成27年10月～(継続中) ⑬平成27年10月～(継続中) ⑭平成27年4月～(継続中) ⑮平成27年4月～(継続中) ⑯平成27年4月～(継続中) ⑰平成27年4月～平成29年3月 ⑱平成26年4月～(継続中) ⑲平成25年4月～(継続中) ⑳平成27年4月～(継続中) ㉑平成27年4月～(継続中) ㉒平成26年7月～平成27年6月

所 属	薬学部 薬学科	職 位	教授	氏 名	西 村 多美子
内 容	①日本薬学会 代議員 ②日本薬理学会 学術評議員 ③日本レギュラトリーサイエンス学会 社員(評議員) ④一般社団法人 薬学教育評価機構 評価員				
期 間	①平成23年4月～現在 ②昭和62年～現在 ③平成23年7月～平成27年9月 ④平成27年4月～現在				

所 属	薬学部 薬学科	職 位	教 授	氏 名	見 尾 光 庸
内 容	①薬学教育協議会薬理学関連教科担当教員会議委員 ②日本私立薬科大学協会教務部長会委員長 ③日本私立薬科大学協会 薬剤師国家試験問題検討委員会薬理学部会委員 ④大学コンソーシアム岡山 運営委員会副委員長 ⑤大学コンソーシアム岡山企画委員会副委員長 ⑥大学コンソーシアム岡山共同教育委員会委員 ⑦大学コンソーシアム岡山社会人教育委員会委員 ⑧大学コンソーシアム岡山将来構想委員会委員 ⑨大学コンソーシアム岡山加盟校の県外PR事業実行委員会委員長				
期 間	①平成16年4月～現在 ②平成27年4月～平成28年3月（委員は平成25年4月～現在） ③平成18年4月～現在 ④平成27年6月～現在（委員は平成27年4月～現在） ⑤平成27年6月～現在 ⑥平成25年4月～現在 ⑦平成27年4月～現在 ⑧平成27年8月～現在 ⑨平成28年1月～現在				

所 属	薬学部 薬学科	職 位	教 授	氏 名	中 西 徹
内 容	1. 岡山県環境放射線等測定技術委員会委員 2. (社)日本アイソトープ協会本部企画委員 3. 日本アイソトープ協会教育訓練検討ワーキング委員 4. Pasteur Society Japan (日本パストゥール協会) プレスリリース日本語版作成委員 5. 日本軟骨代謝学会評議員 6. 日本生化学会評議員 7. 硬組織再生生物学会理事 8. 日本食品衛生学会理事 (中国四国ブロック担当) 9. おかやまバイオアクティブ研究会役員・企画委員 10. Editorial Board of ISRN (International Scholarly Research Network) Biochemistry 11. 「遺伝子工学」教科書編集委員会 代表編集委員 (廣川書店) 12. 日本放射線安全管理学会第15回学術大会副大会長				
期 間	1. 平成22年4月1日～ 2. 平成26年4月1日～ 3. 平成27年12月8日～ 4. 平成15年4月1日～ 5. 平成11年3月1日～ 6. 平成17年10月1日～ 7. 平成16年10月1日～ 8. 平成25年3月1日～				

	9. 平成25年10月11日～ 10. 平成24年 5 月 1 日～ 11. 平成27年 4 月 1 日～ 12. 平成27年12月21日～
--	---

所 属	薬学部 薬学科	職 位	教 授	氏 名	洲 崎 悦 子
内 容	①津山洋学資料館 協議会委員				
期 間	①平成25年 4 月 1 日～平成27年 3 月31日				

所 属	薬学部 薬学科	職 位	教 授	氏 名	渡 辺 雅 彦
内 容	①日本気象予報士会岡山支部長 ②日本環境変異原学会評議員 ③日本環境変異原学会編集委員				
期 間	①平成19年 3 月31日～平成29年 3 月31日 ②平成28年 1 月 1 日～平成29年12月31日 ③平成28年 1 月 1 日～平成29年12月31日				

所 属	薬学部 薬学科	職 位	教 授	氏 名	小 野 浩 重
内 容	①岡山県薬剤師会理事 ②岡山県薬剤師会薬局実習特別委員会委員 ③岡山市学校薬剤師会幹事				
期 間	①平成27年 6 月 7 日～現在 ②平成23年 9 月 1 日～現在 ③平成26年 5 月11日～現在				

所 属	薬学部 薬学科	職 位	准教授	氏 名	工 藤 季 之
内 容	①公益社団法人日本技術士会生物工学部会中国地区幹事 ②公益社団法人日本技術士会中国本部修習技術者支援委員会委員 ③公益社団法人日本技術士会中国本部企画総務委員会Skype会議普及小委員会委員 ④公益社団法人日本技術士会中国本部環境部会副部長 ⑤公益社団法人日本技術士会中国本部岡山県支部幹事 ⑥公益社団法人日本技術士会中国本部岡山県支部副支部長 ⑦公益社団法人日本技術士会中国本部岡山県支部修習技術者支援委員会委員長 ⑧技術士青葉会（東北大学同窓会）幹事 ⑨岡山実験動物研究会幹事				
期 間	①平成19年4月1日～平成29年6月30日 ②平成21年1月1日～平成29年6月30日 ③平成23年6月23日～平成29年6月30日 ④平成23年6月23日～平成29年6月30日 ⑤平成25年7月13日～平成29年6月30日 ⑥平成27年12月1日～平成29年6月30日 ⑦平成25年7月20日～平成29年6月30日 ⑧平成24年1月14日～平成28年1月31日 ⑨平成27年4月1日～平成29年3月31日				

所 属	薬学部 薬学科	職 位	准教授	氏 名	島 田 憲 一
内 容	①岡山県薬剤師会 薬局委員会委員 ②薬学教育協議会 病院・薬局実務実習中国四国地区調整機構事務局長 ③岡山市介護認定審査会委員 ④食品安全モニター				
期 間	①平成20年4月1日～現在 ②平成22年4月1日～現在 ③平成25年4月1日～現在 ④平成27年4月1日～現在				

所 属	薬学部 薬学科	職 位	准教授	氏 名	古 林 呂 之
内 容	①岡山市薬剤師会薬物乱用防止委員会委員				
期 間	①平成26年4月1日～				

所 属	薬学部 薬学科	職 位	講 師	氏 名	佐々木 寛 朗
内 容	①矢掛町まち・ひと・しごと創生有識者会議専門部会委員				
期 間	①平成27年 8 月19日～現在				

所 属	経営学部 経営学科	職 位	教 授	氏 名	杉 山 慎 策
内 容	①津山市第五次総合計画審議委員会会長 ②岡山市第五次総合計画審議委員 ③岡山市経済政策審議会等委員 ④岡山市基本政策審議会委員 ⑤平成26年度岡山県立城東高校スーパーグローバルハイスクール運営指導委員会委員 ⑥つやま産業支援センター運営協議会会長 ⑦津山市観光戦略アクションプラン策定委員会委員 ⑧公益財団法人中島記念財団 ⑨津山地域創生推進会議委員 ⑩備前市まち・ひと・しごと創生懇談会委員				
期 間	①平成27年 4 月 1 日～平成28年 3 月31日 ②平成27年 4 月 1 日～平成28年 3 月31日 ③平成26年11月15日～平成28年11月14日 ④平成26年11月15日～平成28年11月14日 ⑤平成26年 7 月 1 日～平成28年 3 月31日 ⑥平成26年 4 月 1 日～平成28年 3 月31日 ⑦平成26年 4 月 1 日～平成28年 3 月31日 ⑧平成27年 4 月 1 日～平成28年 3 月31日 ⑨平成25年10月28日～平成27年 6 月30日 ⑩平成27年 5 月25日～平成28年 3 月31日				

所 属	経営学部 経営学科	職 位	教 授	氏 名	谷 口 憲 治
内 容	①島根県農政審議会会長 ②島根県農林水産振興がんばる地域応援総合事業評価委員 ③岡山県笠岡市笠岡湾干拓の農産物に係る流通検討業務アドバイザー ④岡山県農地中間管理事業有識者会議委員				
期 間	①平成21年11月 1 日～現在 ②平成24年 4 月 1 日～現在 ③平成27年 3 月 3 日～現在 ④平成28年 1 月28日～現在				

所 属	経営学部 経営学科	職 位	教 授	氏 名	三 枝 省 三
内 容	①広島県未来チャレンジ資金面接審査の有識者相談役 ②日本機械学会 情報知能精密機器部門 ロードマップ委員会委員長 (市民フォーラム開催2015年3月、国際会議での将来技術に関するセッション筆頭コーディネーター、総合報告書)				
期 間	①2015年4月1日～2016年3月31日(不定期、応募のあったときのみ) ②2014年4月1日～2016年3月31日				

所 属	経営学部 経営学科	職 位	教 授	氏 名	野 本 明 成
内 容	①岡山市公の施設の指定管理候補者選定委員会委員 ②笠岡市施策評価委員会委員 ③滋賀県中小企業活性化審議会委員				
期 間	①平成27年6月17日～平成29年6月16日 ②平成27年8月17日～平成27年9月30日 ③平成25年7月～平成27年7月				

所 属	経営学部 経営学科	職 位	教 授	氏 名	大 崎 泰 正
内 容	①倉敷商工会議所「吉備の国クラスター」推進委員会アドバイザー ②特定非営利活動法人ハート・オブ・ゴールド監事				
期 間	①平成14年～ ②平成24年度～				

所 属	経営学部 経営学科	職 位	教 授	氏 名	林 俊 克
内 容	①平成27年度スーパーグローバルハイスクール運営指導委員会委員 (岡山県教育委員会教育長 竹井千庫氏より委嘱)				
期 間	①平成27年6月1日(月)～平成28年3月31日(木)				

所 属	経営学部 経営学科	職 位	准教授	氏 名	八 卷 恵 子
内 容	①諏訪産業集積研究センター SIARC（サイアーク）理事 ②Deputy Chair of Commission on Enterprise Anthropology, Union of International Association of Anthropology and Ethnology （国際人類学・民族学科学連合 企業人類学委員会 副議長） ③世界コスプレサミット 学術委員 ④備前市まち・ひと・しごと創生懇談会 委員 ⑤社会・経済システム学会 理事 ⑥『龍の仕事展』 実行委員 ⑦全国医師会医療秘書学院連絡協議会 運営委員				
期 間	①平成25年 6 月～現在 ②平成25年 8 月～現在 ③平成26年 8 月～現在 ④平成27年 4 月 1 日～現在 ⑤平成27年 4 月～現在 ⑥平成27年 6 月～現在 ⑦平成27年 7 月～現在				

所 属	経営学部 経営学科	職 位	講 師	氏 名	加賀美 太 記
内 容	①くらしと協同の研究所 研究委員・『くらしと協同』編集委員 ②全労済協会「協同組合研究会」研究会委員				
期 間	①平成26年 6 月 1 日～現在 ②平成27年 4 月24日～現在				

所 属	経営学部 経営学科	職 位	講 師	氏 名	櫻 木 理 江
内 容	①岡山県農林水産総合センター生物科学研究所外部評価委員会委員				
期 間	①平成27年 5 月19日～平成29年 3 月31日				

所 属	幼児教育学科	職 位	教 授	氏 名	澤 津 まり子
内 容	①岡山県生涯学習審議会 審議委員 ②瀬戸内市次世代育成支援対策推進協議会委員				
期 間	①平成27年 8 月 1 日～平成29年 7 月31日 ②平成26年 7 月 2 日～現在				

所 属	幼児教育学科	職 位	教 授	氏 名	笹 倉 千佳弘
内 容	①国民教育文化総合研究所・「貧困と子ども・学力」研究委員				
期 間	①平成27年4月1日～平成29年3月31日				

所 属	幼児教育学科	職 位	教 授	氏 名	柴 川 敏 之
内 容	①岡山県新進美術家育成「I氏賞」推薦委員 ②広島県立美術館評価委員会 委員				
期 間	①平成27年6月10日～平成28年6月9日 ②平成27年6月29日～平成28年6月28日				

所 属	生活実践科学科	職 位	教 授	氏 名	国府島 泉
内 容	①日本細菌学会中国・四国支部評議員 ②瀬戸内市発ブランド商品開発・販路開拓支援事業審査委員会委員				
期 間	①平成元年～期限なし ②平成24年～				

講師の派遣

所 属	人文科学部 表現文化学科	職 位	教 授	氏 名	川 崎 剛 志
実 施 日	①平成27年9月12日 ②平成27年11月28日				
事業主催者(依頼元)	①日本古文書学会 ②神戸女子大学古典芸能研究センター				
内 容(タイトル)	①縁起絵巻群の形成と保持 ②絵巻化された説経—絵巻・奈良絵本のいろいろ—				

所 属	人文科学部 表現文化学科	職 位	教 授	氏 名	井 上 啓 治
実 施 日	①平成27年10月8日、及び10月22日				
事業主催者(依頼元)	①ライフパーク倉敷				
内 容(タイトル)	①はじめて学ぶ「南総里見八犬伝」の世界				

所 属	人文科学部 表現文化学科	職 位	教 授	氏 名	中 西 裕
実 施 日	①平成27年5月16日				
事業主催者(依頼元)	①津山工業高等学校				
内 容(タイトル)	①仲間・家族・学校で考える ネットとの付き合い方				

所 属	人文科学部 実践英語学科	職 位	講 師	氏 名	武 部 好 子
実 施 日	①平成27年4月11日～12日				
事業主催者(依頼元)	①シアターX (カイ) (東京 両国)				
内 容(タイトル)	①サミュエル・ベケット作 アイルランド劇団 (Mouth on Fire) 来日公演 『またやってみる またしくじる もっとうまくしくじる』 上演前の劇団からのプレトーク 及び 公演後の観客とのアフターミーティングにおける通訳				

所 属	人文科学部	総合歴史学科	職 位	教 授	氏 名	櫻 田 美津夫
実 施 日	①平成26年11月8日 ②平成27年2月14日					
事業主催者(依頼元)	①瀬戸内市中央公民館、せとうち村塾 ②同上					
内 容(タイトル)	①歴史小説と歴史映画 — 歴史学の味方か敵か ②マラソンの歴史 — なぜ日本人はマラソンが好きか					

所 属	人文科学部	総合歴史学科	職 位	教 授	氏 名	吉 本 勇
実 施 日	①平成27年10月24日					
事業主催者(依頼元)	①笠岡市東公民館					
内 容(タイトル)	①産業観光からみた岡山県の魅力					

所 属	人文科学部	総合歴史学科	職 位	教 授	氏 名	苺 米 一 志
実 施 日	①平成27年9月11日 ②平成27年9月27日 ③平成27年10月24日 ④平成28年3月27日					
事業主催者(依頼元)	①日本古文書学会 ②まなびの広場 岡山 ③岡山県郷土文化財団 ④まなびの広場 岡山					
内 容(タイトル)	①「古文書からみた明応年間の西大寺復興造営」(大会講演) ②「日本中世の信仰と宗教」(一般向け講義) ③「中世吉備地域における寺社の形成と秩序」(シンポジウム報告) ④「日本中世史を楽しむ」(一般向け講義)					

所 属	教育学部 初等教育学科	職 位	准教授	氏 名	楠 博 文
実 施 日	<ul style="list-style-type: none"> ①平成27年 4 月21日 ②平成27年 6 月26日 ③平成27年 7 月 3 日 ④平成27年 7 月10日 ⑤平成27年 7 月24日 ⑥平成27年 8 月18日 ⑦平成27年 8 月19日 ⑧平成27年 8 月20日 ⑨平成27年 8 月25日 ⑩平成27年 8 月26日 ⑪平成27年 9 月 4 日 ⑫平成27年 9 月18日 ⑬平成27年10月 2 日 ⑭平成27年10月16日 ⑮平成27年10月23日 ⑯平成27年11月 4 日 ⑰平成27年11月 6 日 ⑱平成27年11月10日 ⑲平成27年11月20日 ⑳平成27年11月27日 ㉑平成27年12月11日 ㉒平成28年 1 月22日 ㉓平成28年 1 月23日 ㉔平成28年 2 月 3 日 ㉕平成28年 3 月 4 日 				
事業主催者(依頼元)	<ul style="list-style-type: none"> ①岡山県総合教育センター ②三重県桑名市教育委員会 ③浅口市立金光竹小学校 ④赤磐市立山陽北小学校 ⑤勝央町教育委員会 ⑥真庭市立皆部小学校 ⑦勝央町教育委員会 ⑧倉敷市立第一福田小学校 ⑨笠岡市教育委員会笠岡市教育研修所 小学校算数研修部会 ⑩岡山市立大元小学校 ⑪勝央町教育委員会 ⑫浅口市立金光竹小学校 ⑬勝央町教育委員会・勝央町立勝央北小学校 ⑭真庭市立皆部小学校 ⑮浅口市立金光竹小学校 ⑯浅口市立金光吉備小学校 ⑰勝央町教育委員会・勝央町立勝間田小学校 ⑱岡山市立大元小学校 ⑲真庭市立皆部小学校 				

	⑩赤磐市立山陽北小学校 ⑪三重県桑名市教育委員会 ⑫三重県桑名市立長島北部小学校 ⑬三重県桑名市教育委員会 ⑭浅口市立金光吉備小学校 ⑮勝央町教育委員会
内 容(タイトル)	①講演「教育研究の進め方～指導主事の教育研究に期待すること～」 ②研究授業の指導助言および講演 ③研究授業の指導助言 ④師範授業及び研究授業の指導助言 ⑤講義「算数科授業づくりの基礎・基本①」 ⑥学習指導案検討会の指導助言 ⑦講義「算数科授業づくりの基礎・基本②」 ⑧講演「考える授業から深く考える授業へ 新しい算数の授業づくり」 ⑨講演「学ぶ楽しさを味わう算数指導～算数的活動の工夫を通して～」 ⑩算数教育研究中四国大会学習指導案検討会の指導助言 ⑪講義「算数科授業づくりの基礎・基本②」 ⑫研究授業の指導助言 ⑬講義または授業研究および指導助言 ⑭研究授業の指導助言 ⑮研究授業の指導助言 ⑯講演「ユニバーサルデザインの視点を生かした算数の授業づくり」 ⑰研究授業の指導助言 ⑱研究授業の指導助言 ⑲研究授業の指導助言 ⑳研究授業の指導助言及び講演「今後の算数教育の方向性」 ㉑研究授業の指導助言 ㉒研究授業の指導助言及び講演「算数授業のユニバーサルデザイン」 ㉓示範授業及び講演「主体的・協働的に学ぶ算数の授業づくり」 ㉔講演「ユニバーサルデザインの視点を生かした算数の授業づくり」 ㉕講義「これからの算数科における授業づくり」

所 属	教育学部 初等教育学科	職 位	准教授	氏 名	村 田 恵 子
実 施 日	①平成27年 6 月25日 ②平成27年11月14日				
事業主催者(依頼元)	①おかやま地域子育て支援拠点ネットワーク、岡山県 ②岡山市北公民館				
内 容(タイトル)	①地域子育て支援拠点等従事者養成講座 第5・6講座 「親の育ちを支える環境づくり」 「親子の育ちを支えるスタッフのコンピテンシー」 ②「みんなでつくろう、子ども・子育て世代が元気な地域」				

所 属	教育学部 初等教育学科	職 位	准教授	氏 名	福 井 広 和
実 施 日	①平成27年7月27日 ②平成27年7月31日 ③平成27年11月20日 ④平成28年2月23日 ⑤平成27年5月5日 ⑥平成27年7月17日 ⑦平成27年7月11日 ⑧平成27年7月19日 ⑨平成27年11月13日 ⑩平成27年11月21日～23日 ⑪平成27年12月26日 ⑫平成27年12月13日 ⑬平成28年1月10日 ⑭平成28年3月5日				
事業主催者(依頼元)	①富山県立山町教育センター ②福山市学校教育研究団体連絡協議会 ③富山県立山町教育センター ④福井県教育庁義務教育課 ⑤岡山県生涯学習センター人と科学の未来館サイピア ⑥総社市立総社北小学校 ⑦福岡県青少年科学館 ⑧岡山ふれあいセンター ⑨瀬戸内市立牛窓東小学校 ⑩北陸電力エネルギー科学館 ⑪兵庫県立生涯教育センター ⑫岡山県生涯学習センター ⑬岡山県生涯学習センター人と科学の未来館サイピア ⑭神戸市立有野台児童館				
内 容(タイトル)	①学力向上教育講演会「児童生徒の科学的思考力の育成」 ②小学校理科研究会第2回研修会「理科授業づくりのポイント」 ③学力向上実践研究拠点校研究会「生涯理科を見据えた小学校理科の役割」 ④小・中教員理科指導力向上事業実験講習会「理科指導の基礎」 ⑤こどもの日サイエンスショー「音と振動のひみつ」 ⑥宿泊学習サイエンスショー「科学手品に挑戦しよう」 ⑦「サイエンスレンジャーによる科学実験・工作教室」 ⑧「お父さんと一緒に科学実験教室」 ⑨全校児童対象科学教室「水芸の秘密を探ろう」 ⑩「ドライアイスであそぼう」 ⑪うれしのサイエンス「かるたを使って原体験を知ろう」 ⑫科学キッズフェスティバルin京山「3D古墳を作ろう」 ⑬サイエンスインストラクター新春事始め「宇宙への道」 ⑭「まつぼっくりツリーを作ろう」⑮				

所 属	教育学部 初等教育学科	職 位	准教授	氏 名	高 木 亮
実 施 日	①平成27年10月23日				
事業主催者(依頼元)	①岡山市教育研究研修センター				
内 容(タイトル)	①園の内外における連携協力についての理解				

所 属	教育学部 教育心理学科	職 位	教 授	氏 名	郷 木 義 子
実 施 日	①平成27年 5 月 8 日 ②平成27年 7 月23日 ③平成27年 8 月26日 ④平成27年10月16日 ⑤平成27年10月23日 ⑥平成27年12月 8 日 ⑦平成27年12月14日				
事業主催者(依頼元)	①笠岡市教育委員会 ②岡山県教育委員会 ③新見市立塩城小学校 ④庄原市教育委員会 ⑤笠岡市学校保健会 ⑥岡山県教育委員会 ⑦金光中学校				
内 容(タイトル)	①笠岡市養護部会研究指導講師 ②岡山県中学校養護部会夏季研究大会指導助言講師 ③児童理解について 校内教職員研修講師 ④子どもの生活習慣とメディア ⑤子どもの健康問題の変遷と養護教諭の役割 ⑥養護教諭10年研 研究指導 ⑦性感染症の予防				

所 属	教育学部 教育心理学科	職 位	教 授	氏 名	石 山 貴 章
実 施 日	①平成27年 8 月 7 日				
事業主催者(依頼元)	①岡山県総合教育センター				
内 容(タイトル)	①特別支援学校授業づくり研修講座 「作業学習における授業づくりについて」				

所 属	教育学部 教育心理学科	職 位	教 授	氏 名	石 原 みちる
実 施 日	①平成27年 5 月24日 ②平成27年 8 月25日 ③平成28年 2 月27日				
事業主催者(依頼元)	①岡山県臨床心理士会 ②岡山県学校教育相談研究会中学校部会・岡山県中学校教育研究会生徒指導部会 ③岡山県臨床心理士会				
内 容(タイトル)	①学校緊急支援の基礎 ②さわやかな自己表現－アサーション－ ③臨床心理士と倫理～日々の実践の中で具現化するために～				

所 属	教育学部 教育心理学科	職 位	准教授	氏 名	鈴 木 薫
実 施 日	①平成27年 7 月23日 ②平成27年12月9 日				
事業主催者(依頼元)	①岡山市教育委員会 ②福井県越前市保健研究会				
内 容(タイトル)	①幼児のけがと病気の対応について－幼稚園における事故防止の留意点－ ②気づきを深め、提示し、つなげる －気づきからコーディネーション行動へ－				

所 属	教育学部 教育心理学科	職 位	准教授	氏 名	森 宏 樹
実 施 日	①平成27年12月 8 日				
事業主催者(依頼元)	①浅口市立金光中学校				
内 容(タイトル)	①薬物乱用防止				

所 属	教育学部 教育心理学科	職 位	准教授	氏 名	岡 田 信 吾
実 施 日	①平成26年4月24日 ②平成26年6月12日 ③平成26年7月11日 ④平成26年8月3日 ⑤平成26年8月25日 ⑥平成26年10月29日 ⑦平成26年11月4日 ⑧平成26年11月15日 ⑨平成26年12月2日				
事業主催者(依頼元)	①倉敷市教育委員会 ②倉敷市教育委員会 ③備前市教育委員会 ④岡山市立馬屋下小学校 ⑤西大寺南小学校 ⑥岡山県教育委員会 ⑦備前市教育委員会 ⑧NPO法人 遊育 遊びを育てる会 ⑨岡山県立南高等学校				
内 容(タイトル)	①新人特別支援教育コーディネーター研修講座 ②通常学級において発達障害のある生徒の参加を促す学校・学級づくりと学習指導のあり方～中学校での指導を中心に～ ③就学前教育における特別支援教育 こんな子いませんか？ 発達障害のある子の感じ方とその対応 ④障害があるって何だろう ～障害のある人と一緒に学ぶ事を考える～ ⑤学校における特別な教育的ニーズのある子どもへの対応 ⑥特別支援教室について ⑦みんなの中で困った行動解決大作戦！ その理論と実践 ⑧発達障害のある子どもの理解と対応 -学校ができること、親ができること- ⑨発達障害のある生徒の理解と高等学校における合理的配慮のあり方				

所 属	教育学部 教育心理学科	職 位	講 師	氏 名	山 田 美 穂
実 施 日	①平成27年4月6日、4月20日、5月18日、6月1日、6月15日、6月29日、8月3日、8月17日、8月31日、9月7日、10月5日、10月19日、11月2日、11月30日、12月7日、12月21日、平成28年1月18日、2月1日、2月15日、2月29日、3月7日(計21回) ②平成28年2月25日				
事業主催者(依頼元)	①岡山リビング事業社 ②社会福祉法人 第2まこと会 上道荘				
内 容(タイトル)	①リビングカルチャー倶楽部「古典フラ入門」 ②職員研修会「働くこととストレスマネジメント」				

所 属	教育学部 教育心理学科	職 位	講 師	氏 名	下 山 真 衣
実 施 日	①平成27年6月29日 ②平成27年12月14日 ③平成28年1月25日 ④平成28年2月15日 ⑤平成28年3月14日				
事業主催者(依頼元)	①備前市子育て支援拠点 くるみの森				
内 容(タイトル)	①子どもの発達を応援しよう ②ペアレントトレーニング 1 ③ペアレントトレーニング 2 ④ペアレントトレーニング 3 ⑤ペアレントトレーニング 4				

所 属	教育学部 教育心理学科	職 位	講 師	氏 名	岩 佐 和 典
実 施 日	①平成28年1月23日				
事業主催者(依頼元)	①笠岡市中央公民館				
内 容(タイトル)	①感情って何のためにあるんでしょうか				

所 属	薬学部 薬学科	職 位	教 授	氏 名	柴 田 隆 司
実 施 日	①平成27年6月21日				
事業主催者(依頼元)	①富永薬局 311回 サンデーセミナー				
内 容(タイトル)	①最近の大学における教育法 ②外来ケモ患者について				

所 属	薬学部 薬学科	職 位	教 授	氏 名	中 西 徹
実 施 日	①平成27年7月23日 ②平成27年8月29日 ③平成27年8月30日 ④平成28年1月17日				
事業主催者(依頼元)	①清心中学校・女子高校 ②岡山県生涯学習センター・人と科学の未来館サイピア ③岡山県生涯学習センター・人と科学の未来館サイピア ④岡山スーパー大学院実行委員会				
内 容(タイトル)	①iPS細胞観察会講師 ②親子望遠鏡体験学習会講師 ③わくわく科学塾 iPS細胞観察会講師 ④岡山スーパー大学院公開講座「高齢者リウマチのメカニズム」講師				

所 属	薬学部 薬学科	職 位	教 授	氏 名	小 野 浩 重
実 施 日	①平成27年10月21日 ②平成28年1月30日 ③平成28年2月7日				
事業主催者(依頼元)	①岡山県病院薬剤師会 ②日本薬学会中国四国支部 ③岡山県薬剤師会				
内 容(タイトル)	①糖尿病の病態及び臨床検査値に基づく処方設計 ②糖毒性による膵β細胞障害におよぼすGLP-1受容体作動薬の保護効果に関する研究 ③薬局における医療安全管理体制				

所 属	薬学部 薬学科	職 位	准教授	氏 名	平 岡 修
実 施 日	①平成27年7月9日 ②平成27年7月14日 ③平成27年12月5日				
事業主催者(依頼元)	①岡山市立石井中学校 ②岡山県立岡山東商業高校 ③岡山市立福田公民館				
内 容(タイトル)	①薬物乱用教室 ②薬物乱用教室 ③チャレンジワーク お仕事体験教室 薬剤師さんになろう！				

所 属	薬学部 薬学科	職 位	准教授	氏 名	工 藤 季 之
実 施 日	①平成27年11月14日				
事業主催者(依頼元)	①(株)シーエム・エンジニアリング岡山支社				
内 容(タイトル)	①(秋期)技術社員研修「ウイルスを知る～ウイルスから身を守るために～」				

所 属	薬学部 薬学科	職 位	准教授	氏 名	島 田 憲 一
実 施 日	①平成27年 8 月23日				
事業主催者(依頼元)	①有限会社 富永調剤薬局				
内 容(タイトル)	①がん薬物療法において薬局薬剤師に何ができるか？				

所 属	薬学部 薬学科	職 位	准教授	氏 名	古 林 呂 之
実 施 日	①平成27年10月 4 日 ②平成27年12月 5 日				
事業主催者(依頼元)	①岡山市薬剤師会、岡山市、FM岡山 ②福田公民館				
内 容(タイトル)	①第 4 回薬物乱用防止キャンペーン「フィジカルアセスメント (体験)、お薬は安全が第一！ (ポスター展示)」 ②チャレンジワーク！お仕事体験教室「薬剤師さんになろう！」				

所 属	薬学部 薬学科	職 位	講 師	氏 名	毎 熊 隆 誉
実 施 日	①平成27年11月25日 ②平成27年12月16日				
事業主催者(依頼元)	①岡山県病院薬剤師会 (南地区) ②岡山県病院薬剤師会 (東地区)				
内 容(タイトル)	①臨床を志向した教育と研究の実践—薬学部としての役割— ②臨床を志向した教育と研究の実践—薬学部としての役割—				

所 属	経営学部 経営学科	職 位	教 授	氏 名	谷 口 憲 治
実 施 日	①平成27年7月29日 ②平成27年9月18日 ③平成28年1月19日				
事業主催者(依頼元)	①中国山西省靈丘県政府 ②岡山市南区福田公民館 ③岡山県笠岡市				
内 容(タイトル)	①グローバル社会における日本農業の現局面 —農業産業化と農協の役割を中心に— ②地域資源を活かした地域づくり—日本酒と農村文化— ③地域振興と農業の6次産業化—岡山県の取り組みを中心に—				

所 属	経営学部 経営学科	職 位	教 授	氏 名	三 枝 省 三
実 施 日	①平成27年4月1日～平成28年3月31日				
事業主催者(依頼元)	①岡山大学 研究推進産学官連携機構				
内 容(タイトル)	①MOTセミナー (全11回) ②MOT講義学生 (全5回)				

所 属	経営学部 経営学科	職 位	教 授	氏 名	大 崎 泰 正
実 施 日	①平成28年11月19日 ②平成28年11月21日				
事業主催者(依頼元)	①津山商工会議所 ②山田方谷研究会				
内 容(タイトル)	①「津山未来創生ビジョンについて」 ②「地域創生と山田方谷」				

所 属	経営学部 経営学科	職 位	准教授	氏 名	八 卷 恵 子
実 施 日	①平成27年 5 月17日 ②平成27年 8 月 1 日 ③平成28年 1 月29日				
事業主催者(依頼元)	①井原市、井原市市民活動センター・つどえ〜る ②世界コスプレサミット学術委員会 ③笠岡市				
内 容(タイトル)	①つどえ〜る講演会「まちづくりと旅の文化」 ②世界コスプレサミット2015国際シンポジウム「ポップカルチャーが産み出す対外文化交流・観光への影響」『コンテンツツーリズムとコスプレ―聖地のものがたり構築をめぐる―』 ③「サービス視点で考える笠岡の観光―観光立国の実現に向けて―」				

所 属	経営学部 経営学科	職 位	講 師	氏 名	加賀美 太 記
実 施 日	①平成27年 7 月26日 ②平成28年 2 月19日				
事業主催者(依頼元)	①地域と協同の研究センター ②生協総合研究所				
内 容(タイトル)	①生協の商品事業の課題と可能性 ②「超」高齢社会をどう迎えるか? ～「2050研究会」から地域社会と生協への提言～ (パネリストとして登壇)				

所 属	経営学部 経営学科	職 位	講 師	氏 名	櫻 木 理 江
実 施 日	①平成28年 2 月 6 日				
事業主催者(依頼元)	①笠岡市教育委員会				
内 容(タイトル)	①なぜその製品を買ってしまうの				

所 属	幼児教育学科	職 位	教 授	氏 名	田 中 誠
実 施 日	①平成27年5月17日 ②平成27年6月28日 ③平成27年7月20日 ④平成27年8月2日 ⑤平成27年9月17日 ⑥平成27年12月13日 ⑦平成28年2月13日				
事業主催者(依頼元)	①人間禅山口禅会 水津心海 ②人間禅岡山禅会 大竹高天 ③人間禅広島禅会 小島光禅 ④人間禅山口禅会 水津心海 ⑤お煎茶菩提仙唐流 丸川裕浄 ⑥人間禅岡山禅会 大竹高天 ⑦養護学校卒業生保護者・教員有志(高知大学附属特別支援学校)				
内 容(タイトル)	①坐禅のすすめー正しい人間形成のためにー ②坐禅のすすめー正しい人間形成のためにー ③坐禅のすすめー正しい人間形成のためにー ④坐禅のすすめー正しい人間形成のためにー ⑤数息観の実際とその効果ー脳の活性化ー ⑥坐禅と作務ー縦糸と横糸ー ⑦障害児教育ー先人の人間力と教育愛ー				

所 属	幼児教育学科	職 位	教 授	氏 名	澤 津 まり子
実 施 日	①平成25年6月15日 ②平成27年6月27日 ③平成27年11月21日 ④平成28年3月5日 ⑤平成28年3月10日				
事業主催者(依頼元)	①おかやま地域子育て支援拠点ネットワーク ②就実短期大学潜在保育士復職プロジェクト研修 ③就実短期大学潜在保育士復職プロジェクト研修 ④吉備創生カレッジ ⑤なかよし保育園				
内 容(タイトル)	①地域子育て支援拠点等従事者養成講座 基礎研修 ー子どもの発達をふまえた子育ての環境ー ②保育原理 ③乳児保育 ④人生を楽しみましょう「昔話を語り継ぐ」 ⑤園内研修「危機管理」				

所 属	幼児教育学科	職 位	教 授	氏 名	笹 倉 千佳弘
実 施 日	①平成27年7月11日 ②平成27年8月7日 ③平成27年9月21日 ④平成27年10月29日 ⑤平成27年11月7日 ⑥平成27年11月15日 ⑦平成28年2月21日 ⑧平成28年2月27日 ⑨平成28年3月5日 ⑩平成28年3月26日				
事業主催者(依頼元)	①教育の境界研究会 ②就実短期大学幼児教育学科 ③国民教育文化総合研究所 ④岡山大学大学院保健学研究科「妊娠中からの母子支援」即戦力育成プログラム15 ⑤岡山県委託事業 潜在保育士復職支援プロジェクト ⑥特定非営利活動法人輝け「いのち」ネットワーク・特定非営利活動法人深澤晟雄の会 ⑦特定非営利活動法人輝け「いのち」ネットワーク・科研費研究「社会的ハイリスク妊産婦のエンパワメント実現を可能とする地域社会の質」(研究課題番号:25380819) ⑧公益社団法人子ども情報研究センター子育て連携部会 ⑨公益社団法人子ども情報研究センター子育て連携部会 ⑩公益社団法人子ども情報研究センター子育て連携部会				
内 容(タイトル)	①「子どもを育てない親、親が育てない子ども—妊婦健診を受けなかった母親と子どもへの支援—」 ②「主体的な保育活動の創造に向けて」 ③「貧困脱出手段としての学力向上はいかなる事態を引き起こすのか？」 ④「社会的ハイリスク妊産婦と彼女から生まれた子どもへの支援」 ⑤「保育行政」 ⑥「社会的養護の子どもをまるごと受け入れる西和賀町の魅力」 ⑦「里親と共に考える社会的養護児童の子育ち・子育て—地域養護活動とそれを支える西和賀町—」 ⑧「地域の支えが乏しくなった時代の子育ち・子育て」 ⑨「精神障害者の暮らしを地域で支える精神科医のとりくみ」 ⑩「地域で支える被虐待経験のある子どもの育ち—社会的養護児童の子育ての社会化の意義とそれを可能とする地域—」				

所 属	幼児教育学科	職 位	教 授	氏 名	柴 川 敏 之
実 施 日	①平成28年2月28日(日) ②平成28年2月27日(土)、2月28日(日)				
事業主催者(依頼元)	①北九州市立美術館 ②北九州市立美術館				
内 容(タイトル)	①ワークショップ「紙でつくろう! 2000年後のステンドグラス」の講師 *北九州市立美術館アウトリーチ事業「柴川敏之ワークショップ 2000年後のブリッジ☆プロジェクト」(以下②同) ②ミニ・ワークショップ「未来を占おう! 2000年後のおみくじ」の講師				

所 属	幼児教育学科	職 位	講 師	氏 名	秋 山 真 理 子
実 施 日	①平成28年2月13日				
事業主催者(依頼元)	①笠岡市教育委員会				
内 容(タイトル)	①童謡を歌いましょう				

所 属	生活実践科学科	職 位	教 授	氏 名	芳 賀 修
実 施 日	①平成27年6月16日				
事業主催者(依頼元)	①ライフパーク倉敷				
内 容(タイトル)	①ご当地モノの中に気候風土を探ってみよう				

所 属	生活実践科学科	職 位	教 授	氏 名	岡 本 己 恵 子
実 施 日	①平成26年6月2日				
事業主催者(依頼元)	①ライフパーク倉敷				
内 容(タイトル)	①意識して食べよう! 身近な食品の色と働き				

所 属	生活実践科学科	職 位	准教授	氏 名	畦 五 月
実 施 日	①平成28年1月21日				
事業主催者(依頼元)	①早島町健康福祉課				
内 容(タイトル)	①寒さに対処した薬膳料理を作ろう				

所 属	教職支援センター	職 位	企画監	氏 名	赤 坂 英 二
実 施 日	①平成27年7月31日 ②平成27年9月14日 ③平成27年11月16日				
事業主催者(依頼元)	①岡山市立富山中学校区(幼・小・中)人権教育部 ②岡山市立大野小学校 ③岡山市立雄神小学校				
内 容(タイトル)	①人間性豊かな教師とは ②友達ってすばらしい(6年生児童対象) ③雄神小・雄神学区の宝(3年生児童対象)				

所 属	学生課(兼)国際交流センター室	職 位	課長代理	氏 名	野 村 照 代
実 施 日	①平成27年6月6日				
事業主催者(依頼元)	①岡山キャリア教育支援ネット				
内 容(タイトル)	①失敗しない就活・インターンシップのためのマナー講座Ⅲ —秘書検定一級資格者によるセミナーと実技指導—				

『地域と歩んだ就実の軌跡－地域貢献報告書』

第 8 号

2016年 5 月20日

発 行 就実大学・就実短期大学 地域貢献委員会
〒703-8516 岡山県岡山市中区西川原一丁目 6 番 1 号
Tel (086)271-8111(代)

発行責任者 地域貢献委員長 小野浩重

印 刷 株式会社三門印刷所

